

個々の古墳出土銅鏡の鋸齒文

(その4 平原1号墓出土鏡)

10506 前 義治

目次

1. まえがき 1
2. 平原1号墓出土鏡の内訳 2
3. 方格規矩4神鏡の同環鏡の探索 4
4. 個々の鏡の同環鏡 8
 - 4.1 尚方作銘のある1環鏡の同環鏡 8
 - 4.2 尚方作方格規鏡の2環鏡の同環鏡 34
 - 4.3 陶氏作方格規矩4神鏡の同環鏡 68
 - 4.4 結果の検討 92
5. 平原出土の内行花文鏡の出自の検討 100
6. 最終的なまとめ 111

1. まえがき

筆者たちは、今回の平原古墳鏡の鋸齒文の探索の前におよそ380面の鏡の鋸齒文を調べた。しかし、不思議と平原遺跡出土の鏡は出てこなかった。筆者たちは、この世に出ている書籍、博物館資料から試料を採取したが、平原鏡は出てこなかったのである。われわれにとってエアポケットみたいになっていたのである。しかし、平原遺跡からは、大量の銅鏡が出土しているらしいので、我々の銅鏡の鋸齒文研究の掉尾を飾る意味で、今回平原遺跡出土銅鏡の同環鏡を調査することとした。

平原出土鏡の外観写真および鏡径などの資料は糸島市立伊都国歴史博物館様からご提供いただいた。ここにあつく感謝申し上げる次第であります。

そして同環鏡調査の結果、驚くべき事実遭遇したのである。平原出土の方格規矩4神鏡のすべてが、三角縁神獸鏡と多数同環なのである。これは、平原出土鏡と陳是・陳氏が作った三角縁神獸鏡とに密接な関係があることを示している。これは**驚くべき発見ではないだろうか**。さらに平原出土の内行花文鏡についても、既存の内行花文鏡と環径、図像が同一であり、その既存の内行花文鏡がその鋸齒文から中国製と推定され、平原出土の内行花文鏡が最終的に方格規矩鏡とともに、中国製と判定されたのである。

これは重大なことと判断し、ここに報告させていただくこととした次第である。

2. 平原 1 号墓出土鏡の内訳

前原市教育委員会発行の「平原遺跡」前原市文化財調査報告書（第 70 集）（2000 年）によれば、平原 1 号墓からは

平原 1～9 尚方作方格規矩 4 神鏡
 平原 10～16 内行花文鏡
 平原 17 キ龍文鏡
 平原 18～30 尚方作方格規矩 4 神鏡
 平原 31～39 陶氏作方格規矩 4 神鏡
 平原 40 方格規矩 4 神鏡

が出土している。

筆者は、福岡県糸島市立伊都国歴史博物館様より、1～7、9～10、12～24、26～40 計 37 枚の写真とそれらの鏡径の提供を受けた。ここに厚く感謝いたします。なお平原 8、11、25 は別組織管理のためここでは欠落している。

今回調査した平原鏡の諸元を下表に示した。

当方通し番号	平原鏡原本番号	鏡型式銘	鏡縁型式	面径(mm)	本報告での同環鏡探索
384	1	方格規矩 4 神鏡	竜雲文縁 1	234	あり
385	2	同上	同上	209	あり
386	3	同上	同上	210	あり
387	4	同上	同上	207	あり
388	5	同上	同上	184	あり
389	6	同上	同上	185	あり
390	7	同上	同上	161	あり
391	8	同上	同上	161	
392	9	同上	同上	165 (390 と同環)	
393	10	内行花文八葉鏡	素文縁	462	
394	11	同上	同上	464	
395	12	同上	同上	465	

396	13	同上	同上		
397	14	同上	同上	465	
398	15	同上	同上	270	
399	16	同上	同上	187	
400	17	キ龍文鏡	同上	165	あり
401	18	方格規矩4神鏡	鋸齒文縁 a1	161	あり
402	19	同上	同上	159	あり
403	20	同上	同上	185	あり
404	21	同上	同上	207	あり
405	22	同上	同上	187 (409 に統一)	
406	23	同上	同上	191	あり
407	24	同上	同上	188 (409 に統一)	
408	25	同上	同上		
409	26	同上	同上	183	あり
410	27	同上	同上	158	あり
411	28	同上	同上	182	あり
412	29	同上	同上	165	あり
413	30	同上	同上	189	あり
414	31	同上	同上	186	あり
415	32	同上	同上	188	あり
416	33	同上	同上	188 (415 と同範)	あり
417	34	同上	同上	166	あり
418	35	同上	同上	166 (417 と同範)	あり
419	36	同上	同上	162	あり
420	37	同上	同上	164	あり
421	38	同上	同上	188	あり
422	39	同上	同上	186	あり
423	40	同上	鋸齒文縁 c1	117	あり

3. 方格規矩 4 神鏡の同環鏡の探索

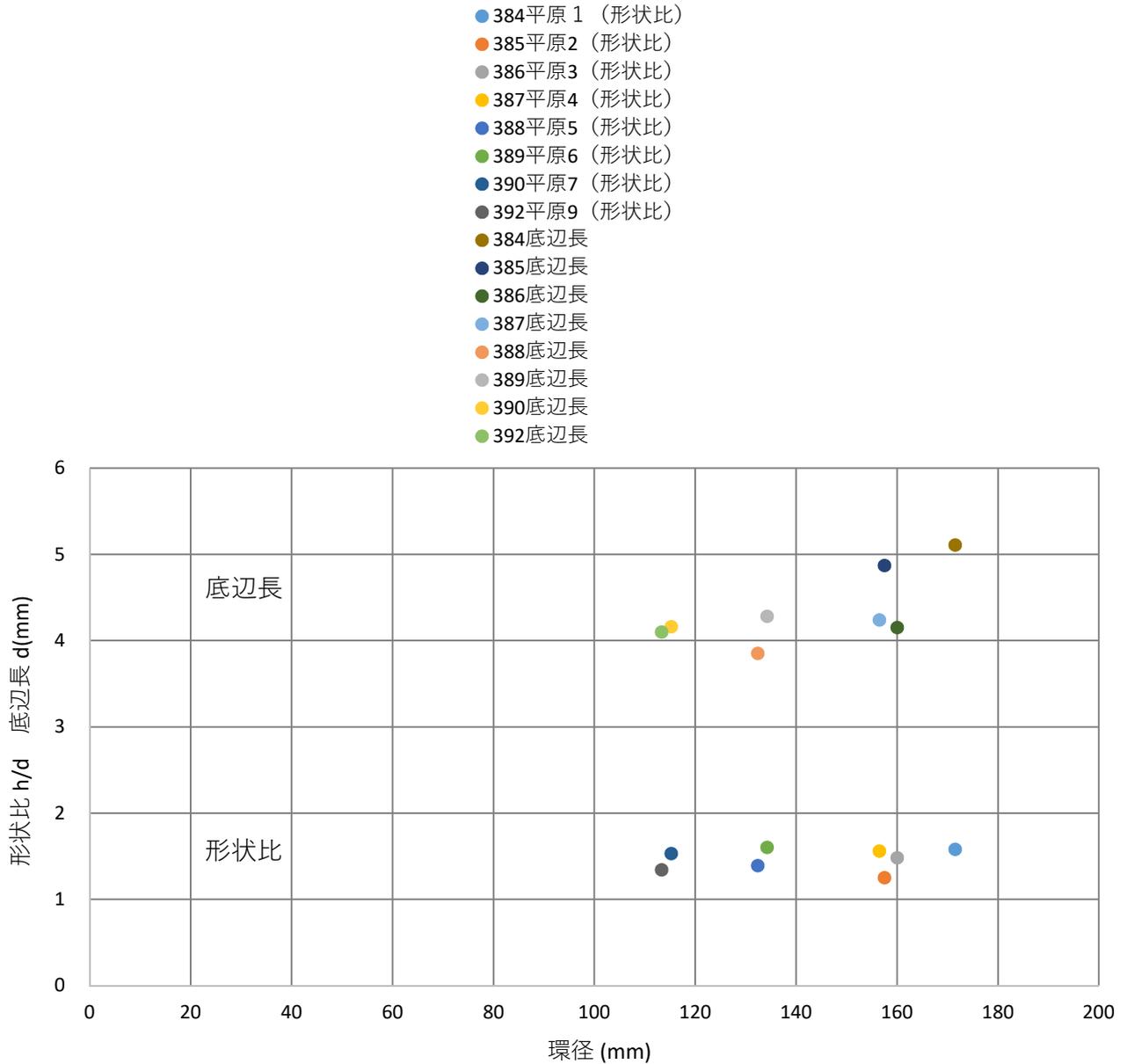
上記の平原鏡のうち、鋸歯文のない内行花文鏡の平原 10～16 を除いた 30 面の鏡の鋸歯文を測定し、凡そ 400 面の鋸歯文のデータベースから同環鏡を探索した（その後、「浙江出土銅鏡」（2000 年、王士倫、文物出版社発行）の浙江出土銅鏡 46 面を加えたが、それらは以下、青字で示す）。

同環鏡探索の方法は先の報告で述べたとおりである。

鏡の名称の表示は最初の数字が当方の通し番号、続いて平原鏡の報告書での番号となっている。

図 1 に 384 平原 1 号鏡から 392 平原 9 号鏡までの鏡の鋸歯文データを示した。これらの鏡は鋸歯環が一つの、1 環であり、尚方作の共通の銘がある。環径が広範囲に分布している。

(384-392)尚方作方格規矩4神鏡（第1群）の形状比と底辺長



s

図 I 尚方作銘のある方格規矩4神鏡の1環鏡（384 平原1～392 平原9）の形状比と底辺長

図2に400平原17号から411平原28号までの鋸歯文データを示した。これらの鏡は鋸歯環が2環で共通して尚方作の銘がある。キ龍文鏡の400平原17（鏡径165mm）は環径が小さく、鋸歯環が3環であり尚方作銘もない。

2環の尚方作銘の鏡は狭い範囲に密集している。

(400-411)尚方作方格規矩4神鏡（第2群）の形状比と底辺長

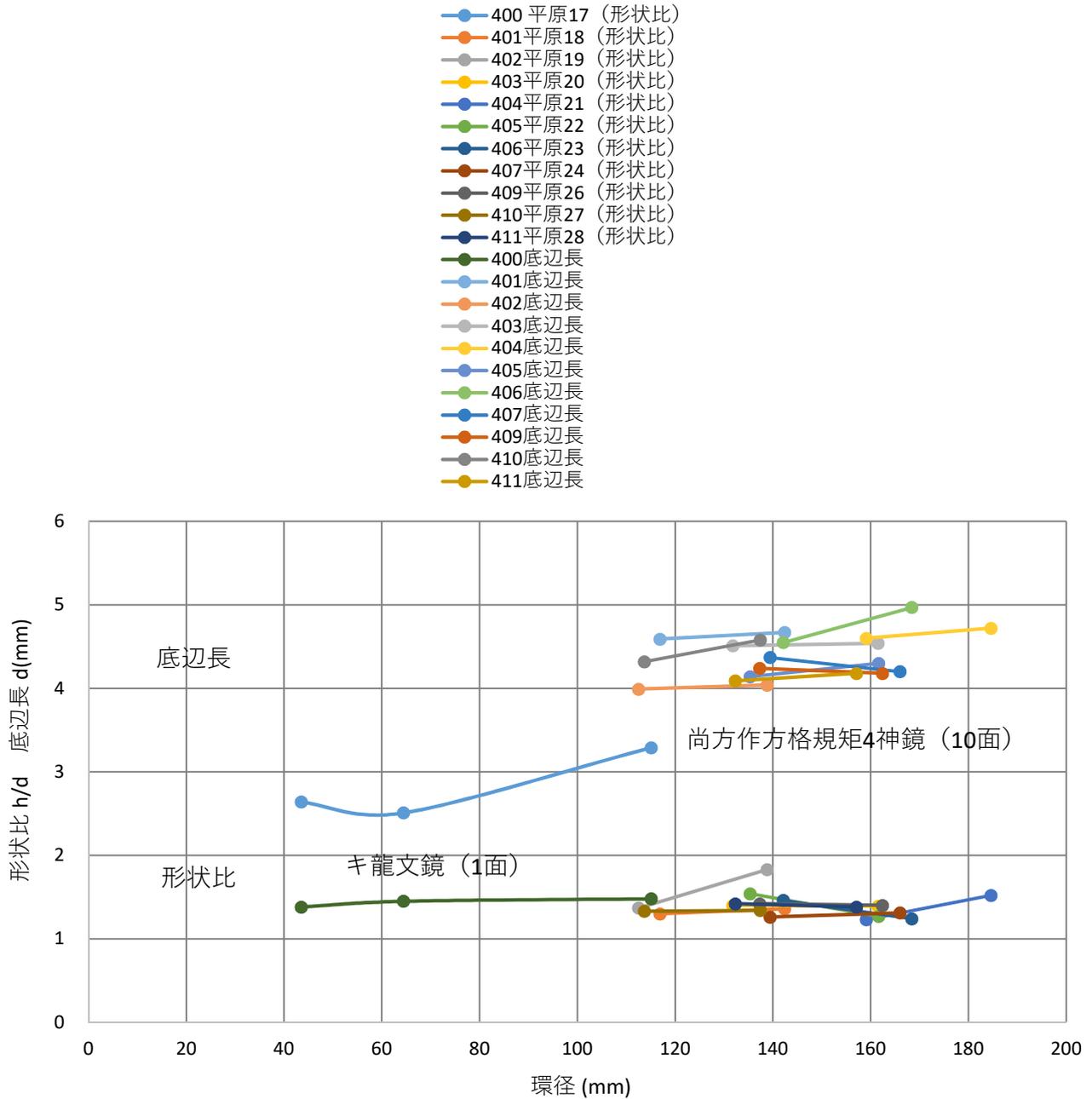


図2 尚方作銘のある方格規矩4神鏡の2環鏡（400平原17～411平原28）の形状比と底辺長

図3に方格規矩4神鏡等の2環鏡（412平原29～423平原40）の鋸齒文データを示した。これらの鏡は陶氏作銘がある2環鏡である。陶氏作銘のない特に小径の423平原40を除いて、鋸齒文データは狭い範囲に集まっている。また先の図2の尚方作の鏡との差もない。

(412-413)作者不詳方格規矩4神鏡および(414-423)陶氏作方格規矩4神鏡（第3

群)の形状比と底辺長

- 412平原29 (形状比)
- 413平原30 (形状比)
- 414平原31 (形状比)
- 415平原32 (形状比)
- 416平原33 (形状比)
- 417平原34 (形状比)
- 418平原35 (形状比)
- 419平原36 (形状比)
- 420平原37 (形状比)
- 421平原38 (形状比)
- 422平原39 (形状比)
- 423平原40 (形状比)
- 412底辺長
- 413底辺長
- 414底辺長
- 415底辺長
- 416底辺長
- 417底辺長
- 418底辺長
- 419底辺長
- 420底辺長
- 421底辺長
- 422底辺長
- 423底辺長

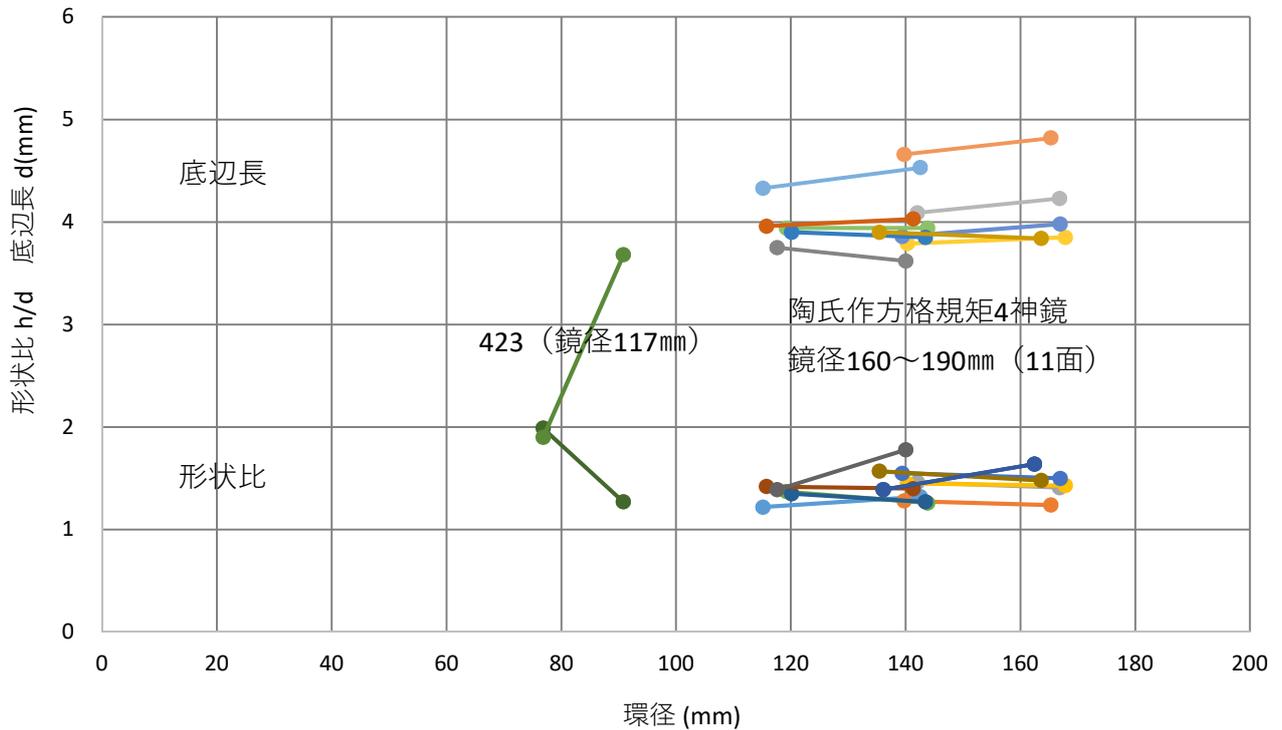


図3 陶氏作銘のある方格規矩4神鏡等の2環鏡(412平原29~423平原40)の形状比と底辺長

4. 個々の鏡の同環鏡

次にこれら 30 面の鏡の同環鏡の探索結果を以下に述べる。

4.1 尚方作銘のある 1 環鏡の同環鏡

図 1 に示した鏡のそれぞれの同環鏡探索の結果を以下に示す。

384 平原 1 号鏡

384 平原 1 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 234 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した（表中、出土地の空欄は国内産を示す）。

384 の同環鏡・同数鏡は日本鏡にも極めて少なかった。

わずか 128 大阪紫金山方格規矩鏡のみが同環であった。128 は L 字が逆 L 字であり中国風である。同範か。

中国鏡には同環鏡は全く認められなかった。

384 は L 字が鏡の中心に向かって右曲がり（逆 L 字）であるので、中国鏡の特徴を有している。

384 平原 1 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 234 mm）の同環鏡（環径 172mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
128	大阪紫金山方格規矩 4 神鏡	238	172	

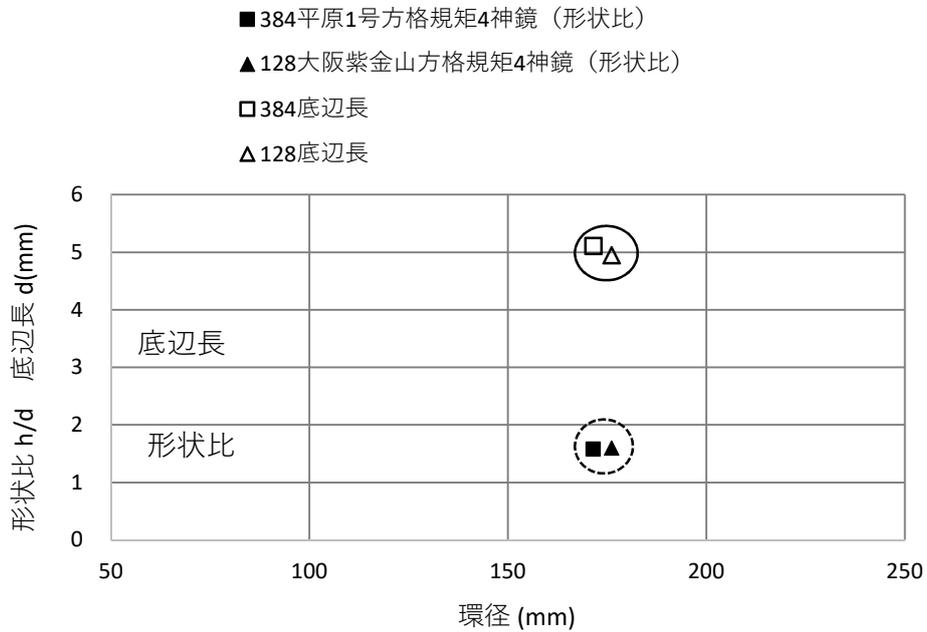
384 平原 1 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 234 mm）の同数鏡（環径 172mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
41	京都百々ヶ池三角縁 3 仏 3 獸鏡	205	172	
249	造山 1 号墳方格規矩 4 神鏡	189	172	

同環のデータを以下に示した。表に示した同環鏡の証拠データをいちいち示すと膨大な量となる。したがって、同環鏡のデータは、1 件にみにとどめさせていただく。

(384, 128)

128 が同環である。同範か。

(384, 128)の形状比と底辺長



128 紫金山鏡との同環の関係を以下に示した。

同一縮尺で二つの鏡を中心をそろえて上下に並べる。中心を結ぶ直線を一辺とする長方形を描く。もう一つの長辺の両端が鋸歯文に接するようにする。二つの頂点が同環である鋸歯環をそれぞれ示す。



128 大阪紫金山方格規矩 4 神鏡 (鏡径 238 mm)



384 平原 1 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 234 mm)

385 平原 2 号鏡

385 平原 2 号方格規矩 4 神鏡（鏡径）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

385 には三角縁神獸鏡の同環鏡・同数鏡が多い。中国鏡の同環鏡はなかった。

（平原鏡の方格規矩鏡が三角縁神獸鏡と同環なのである。しかも多数。信じられない一瞬であった。）

L 字は中国風の中心に向かって右曲がり（逆 L 字）である。

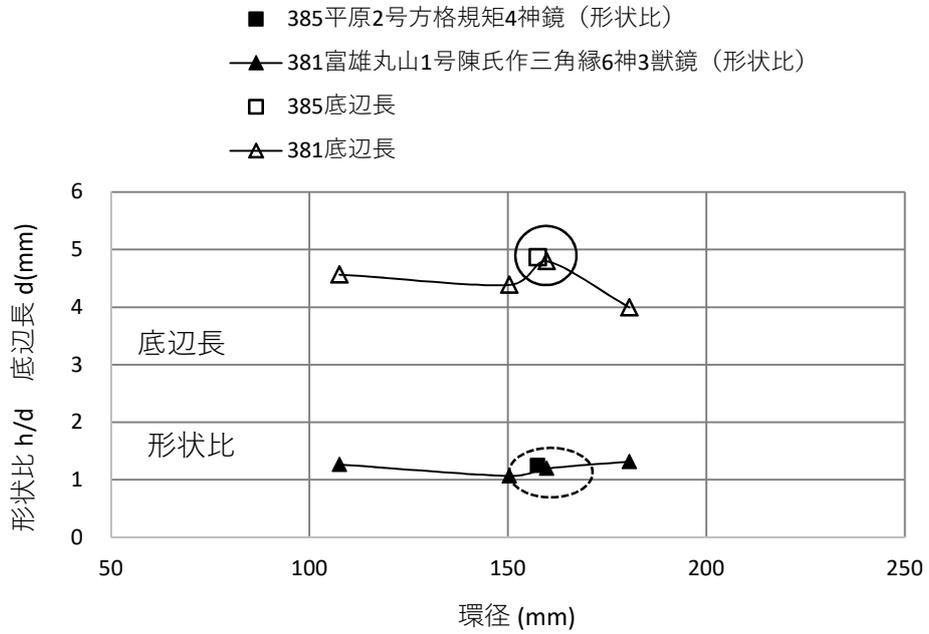
385 平原 2 号方格規矩 4 神鏡（鏡径）の同環鏡（環径 158mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
281	黒塚 27 号獸文帯 4 神 4 獸鏡（362 と同じ）	234	158（以下 同じ）	（無印 は日本 出土、 以下同 じ）
326	西求女塚 2 号三角縁吾作 4 神 4 獸鏡	224		
349	黒塚 14 号三角縁面文帯 6 神 3 獸鏡	218		
357	黒塚 22 号三角縁 4 神 4 獸鏡	225		
371	佐賀谷口三角縁 3 神 3 獸鏡	216		
381	富雄丸山 1 号三角縁神獸鏡	216		

385 平原 2 号方格規矩 4 神鏡（鏡径）の同数鏡（環径 158mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
1	国分茶臼山三角縁 4 神 2 獸鏡	222	158（以下 同じ）	
16	佐味田三角縁画像鏡	211		
285	椿井大塚山三角縁神獸鏡（3 と同じ）	233		
304	椿井大塚山 10 獸文帯 4 神 4 獸鏡	233		
344	黒塚 9 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	233		

(385, 381)

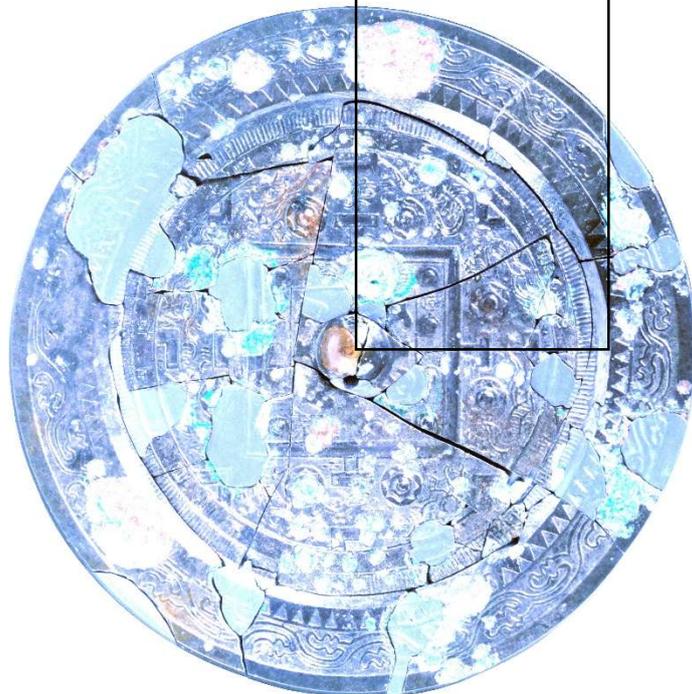
381 が同環である。陳氏作銘鏡が同環である。

(385, 381)の形状比と底辺長





381 富雄丸山 1 号鏡陳氏作三角縁 6 神 3 獸鏡（鏡径 216 mm）



385 平原 2 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 209 mm）

386 平原 3 号鏡

386 平原 3 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 210mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

386 には三角縁神獸鏡の同環鏡と同数鏡が極めて多い。

386 の L 字は右曲がり（逆 L 字）で中国風である。

386 は浙江出土銅鏡の 453（王士倫、浙江出土銅鏡、文物出版社、2006 年、彩版 29）東漢 4 獸画像鏡と同環である。したがって 386 は中国鏡である。陳是・陳氏は平原鏡の 160 mm の鋸齒環で多くの三角縁神獸鏡を作った。

386 平原 3 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 210mm）の同環鏡（環径 160mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	160（以下 同じ）	
26	安満宮山 3 号三角縁獸文帯 4 神 4 獸鏡	225		
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸鏡	215		
36	大分亀甲山三角縁波文帯 3 神 3 獸鏡	215		
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獸鏡	224		
71	山口宮の洲三角縁 2 神 2 獸	224		
88	大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡	206		
155	八尾郡川画像鏡	206		
162	京都百々ヶ池獸帯鏡	215		
185	新山尚方作三角縁神獸鏡	223		
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208		
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獸鏡	214		
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226		
319	椿井大塚山 25 獸文帯 2 神 2 獸鏡	220		
409	平原 26 号方格規矩 4 神鏡	183		
411	平原 28 号方格規矩 4 神鏡	182		
453	（彩版 29）東漢 4 獸画像鏡	210		中国

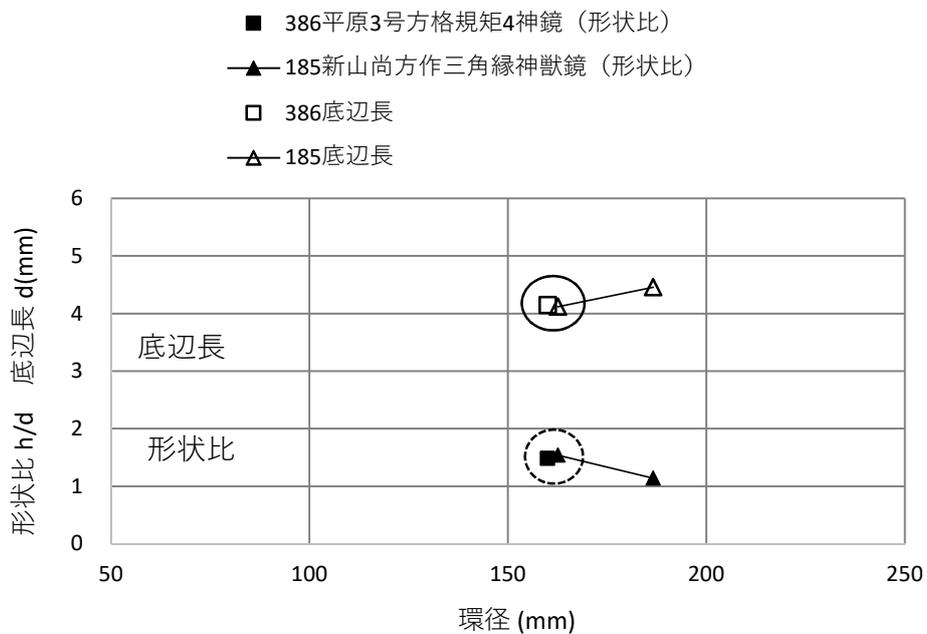
386 平原 3 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 210mm) の同環鏡 (環径 160mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
52	兵庫女塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	221	160 (以下 同じ)	
319	椿井大塚山 25 獣文帯 2 神 2 獣鏡	220		
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獣鏡	218		
340	黒塚 5 号三角縁獣帯 5 神 4 獣鏡	225		
348	黒塚 13 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	218		
350	黒塚 15 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	222		
370	王趁意氏提供鏡	183		
375	福岡原口三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	219		

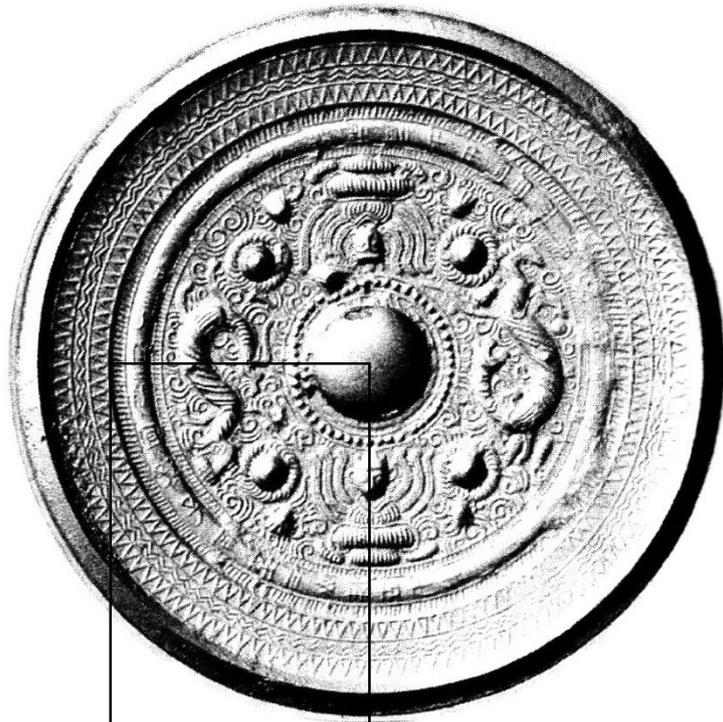
同環鏡の例を以下に示した。

(386, 185)

185 が同環である。

(386, 185)の形状比と底辺長





185 新山尚方作三角縁神獸鏡（鏡径 223 mm）

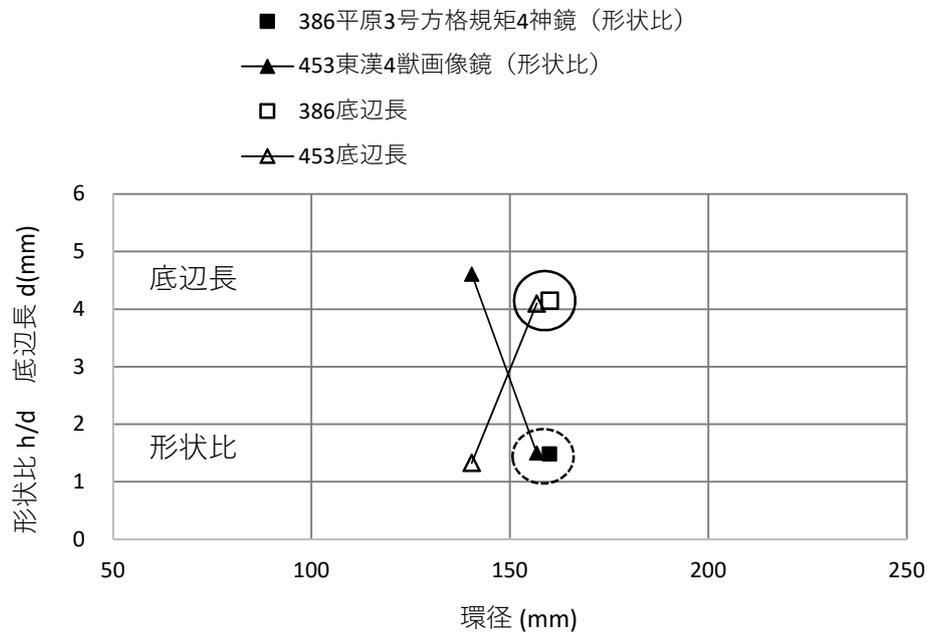


386 平原 3 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 210 mm）

(386, 453)

453 が同環である。453 は浙江出土銅鏡である。

(386, 453)の形状比と底辺長





453 (彩版 29) 東漢 4 獸画像鏡 (鏡徑 210 mm)



386 平原 3 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 210 mm)

387 平原 4 号鏡

387 平原 4 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

387 には三角縁神獸鏡の同環鏡と同数鏡が多数ある。中国鏡の同環鏡は存在しない。

387 の L 字は逆 L 字であり中国風である。

387 は浙江出土銅鏡 453（29）東漢 4 獸画像鏡と同環である。

したがって 387 は中国製である。

387 平原 4 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同環鏡（環径 157mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
26	安満宮山 3 号三角縁獸文帯 4 神 4 獸鏡	225	157（以下 同じ）	
88	大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡	206		
181	立岩方格規矩鏡	200		
239	鴨都波①斜縁 2 神 4 獸鏡	185		
319	椿井大塚山 25 獸文帯 2 神 2 獸鏡	220		
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184		
386	平原 3 号方格規矩 4 神鏡	210		
411	平原 28 号方格規矩 4 神鏡	182		
453	東漢 4 獸画像鏡	210		中国

387 平原 4 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同数鏡（環径 157mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獸鏡	215	157（以下 同じ）	
11	前橋三角縁 5 神 4 獸鏡	223		
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226		
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸鏡	215		
71	山口宮の洲三角縁 2 神 2 獸鏡	224		
155	八尾郡川画像鏡（224 と同範）	206		
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208		

301	椿井大塚山7張氏作3神5獸鏡	226		
340	黒塚5号三角縁5神4獸鏡	225		
350	黒塚15号三角縁獸帯4神4獸鏡	222		
355	黒塚20号王氏作三角縁銘帯4神4獸鏡	223		
363	黒塚28号三角縁獸帯4神4獸鏡	225		

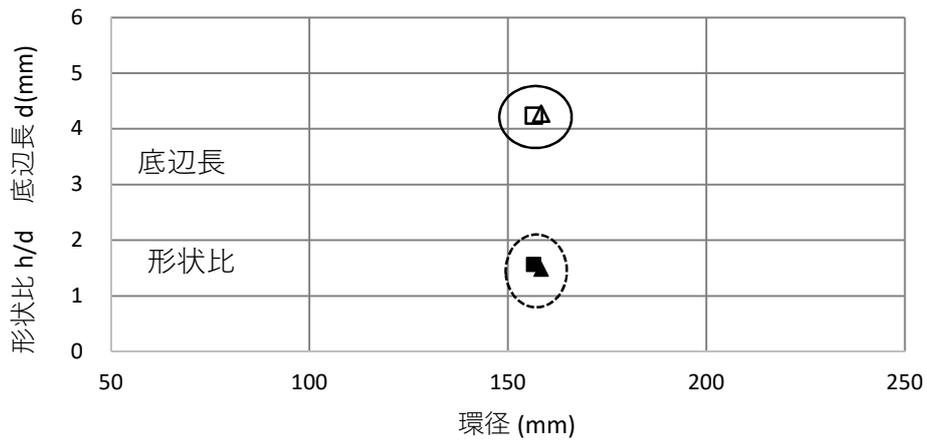
387 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(387, 88)

88 が同環である。

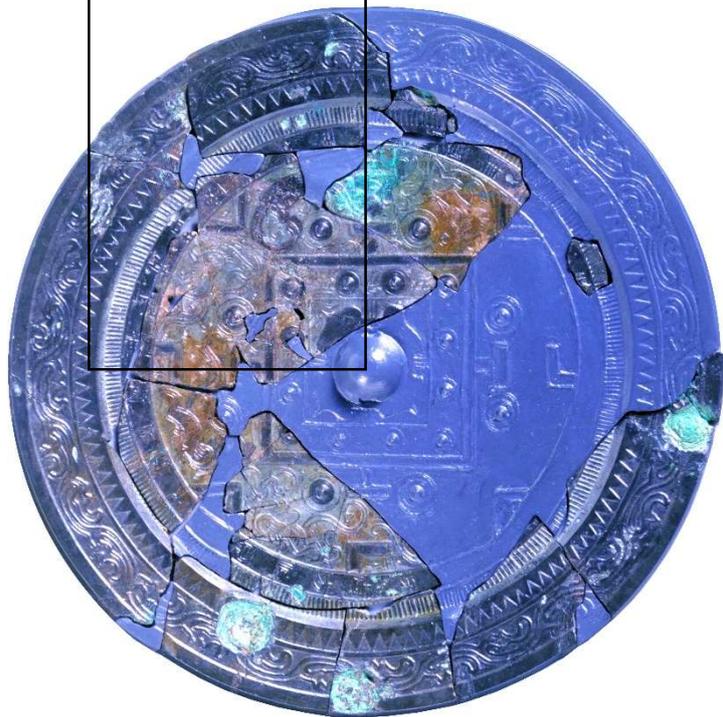
(387, 88)の形状比と底辺長

- 387平原4号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 88大坂西塚尚方作神人歌舞像鏡
- 387底辺長
- △— 88底辺長





88 大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡（鏡径 206 mm）



387 平原 4 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）

388 平原 5 号鏡

388 平原 5 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 184 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

388 も三角縁神獸鏡と同環である。一方中国鏡とも同環である。しかし、それらの中国鏡は日本出土の陳是・陳氏銘鏡と同環であるため中国での陳是・陳氏作品とみなされるものである。

最も古い陳是作品と鋸齒文から認定した 24、335 の青龍 3 年銘鏡とも同環である。

388 は浙江出土銅鏡 432 (8) 東漢博局禽獸鏡と同環である。したがって 388 は中国製である。

陳是は 432 を見てそれを自分の鏡に移植したのである。

388 平原 5 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 184 mm）の同環鏡（環径 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
24	安満宮山 2 号青龍 3 年 (235 年) 銘方格規矩 4 神鏡	174	132	
78	奈良佐味田三角縁 4 神 4 獸鏡	238		
190	長江流域鏡 (2) 尚方神人鳥獸画像鏡	180		中国
239	鴨都波①斜縁 2 神 4 獸鏡	185		
262	聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡	155		中国
290	雪野山三角縁唐草文帯 4 神 4 獸鏡	242		
323	椿井大塚山 29 波文帯盤龍鏡	245		
335	太田南 5 号青龍 3 年銘方格規矩鏡	174		
422	平原 39 号方格規矩 4 神鏡	186		
432	東漢博局禽獸鏡	183		中国

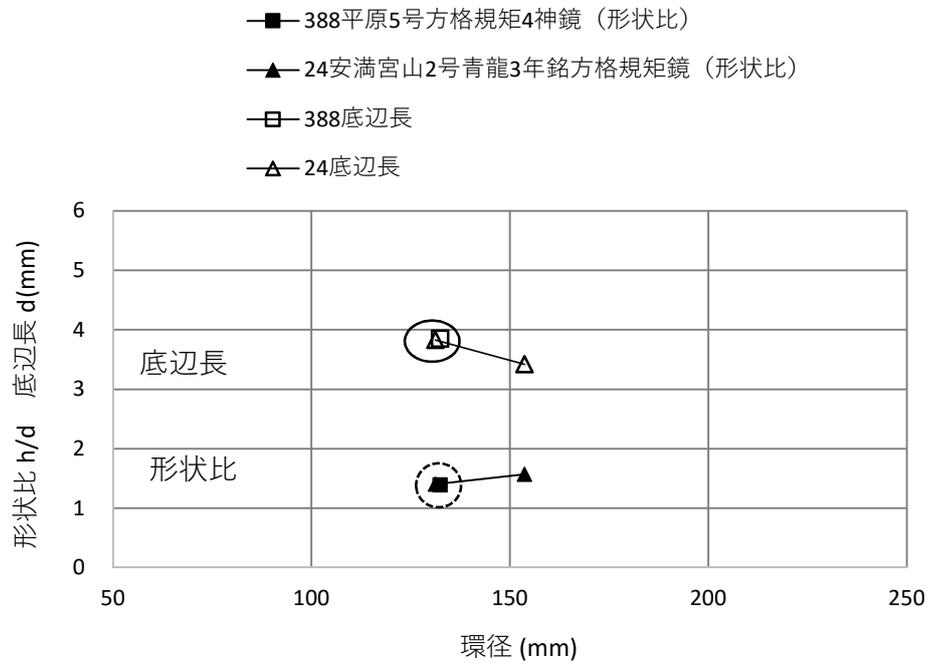
388 平原 5 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 184 mm）の同数鏡（環径 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
189	長江流域鏡 (1) 6 乳仙人 5 靈鏡	156	132	中国

384 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(388, 24)

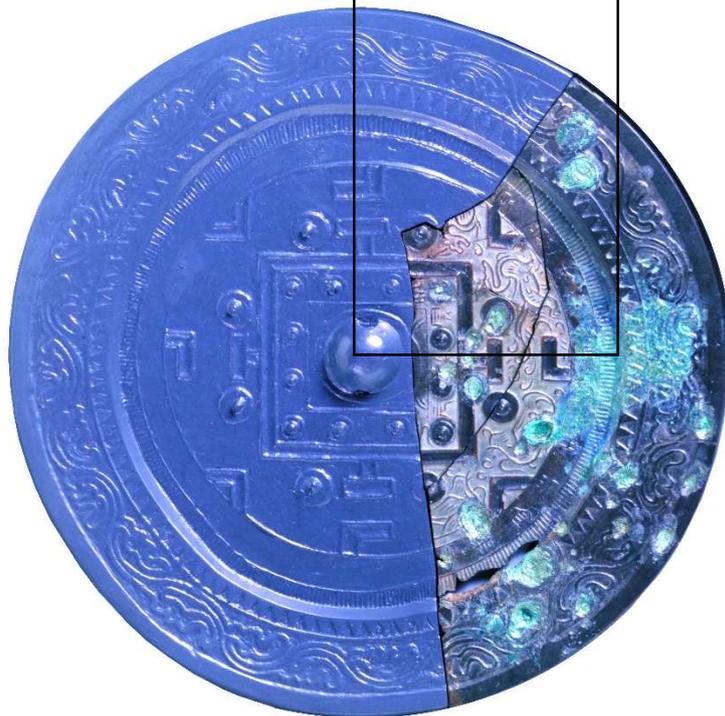
24 が同環である。

(388, 24)の形状比と底辺長





24 安満宮山 2 号青龍 3 年銘方格規矩 4 神鏡（鏡径 174 mm）



388 平原 5 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 184 mm）

389 平原 6 号鏡

389 平原 6 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

389 は中国時代の陳是作品である 132 吾作甚獨奇銘鏡と同環である。またそれより 30 年後の 210 泰始 9 年（273 年）銘鏡とも同環である。

389 の L 字は逆 L 字であるので、中国風である。

389 平原 6 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）の同環鏡（環径 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
7	長法寺南原三角縁 3 神 3 獸鏡	227	132（以下 同じ）	
132	河北省易県吾作甚獨奇銘方格規矩鳥文鏡	154		中国
210	河南省淇県泰始 9 年（273 年）銘神獸鏡	176		中国

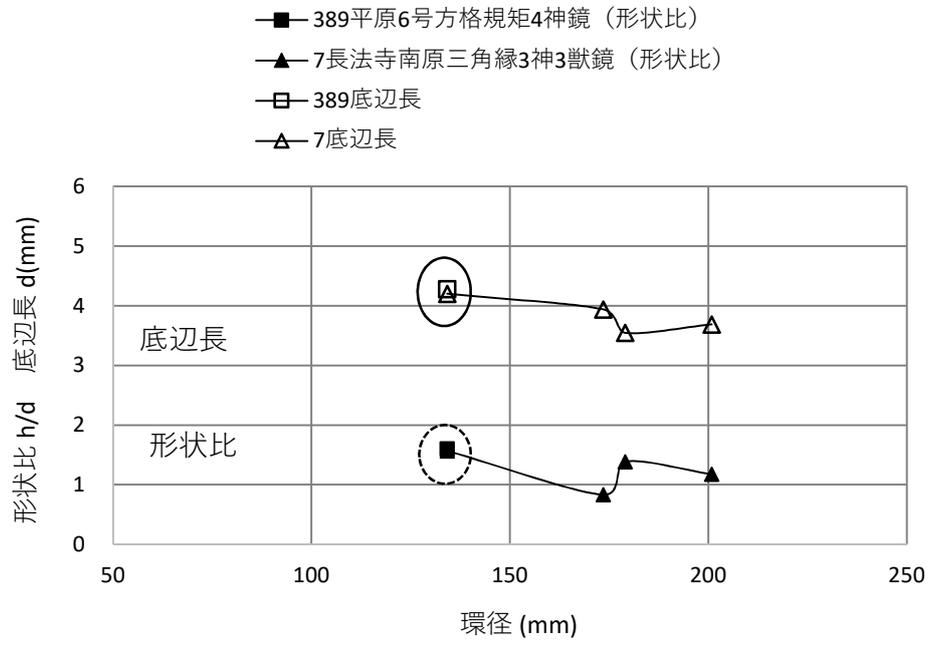
389 平原 6 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）の同数鏡（環径 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
77	長法寺南原三角縁 4 神 4 獸鏡	230	132（以下 同じ）	
211	久保惣記念美術館蔵泰始 9 年銘鏡	177		
292	雪野山三角縁波文帯盤龍鏡	247		
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184		
409	平原 26 号方格規矩 4 神鏡	183		

389 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(389, 7)

7 が同環である。

(389, 7)の形状比と底辺長





7 長法寺南原三角縁 3 神 3 獸鏡 (鏡径 227 mm)



389 平原 6 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 185 mm)

390 平原 7 号鏡

390 平原 7 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

390 は三角縁神獸鏡 2 面と同環である。陳是作銘鏡とも同数である。L 字は逆 L 字でありその点では中国風である。

平原鏡 3 面と同環である。

390 平原 7 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同環鏡（環径 112mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
82	岡山車塚三角縁画文帯 5 神 4 獸鏡	220	112（以下 同じ）	
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220		
392	平原 9 号方格規矩 4 神鏡	161		
402	平原 19 号方格規矩 4 神鏡	159		
419	平原 36 号方格規矩 4 神鏡	162		

390 平原 7 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同数鏡（環径 112mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
320	椿井大塚山 26 獸文帯 4 神 4 獸鏡	224	112（以下 同じ）	
342	黒塚 7 号陳是作銘三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	223		
363	黒塚 28 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	225		

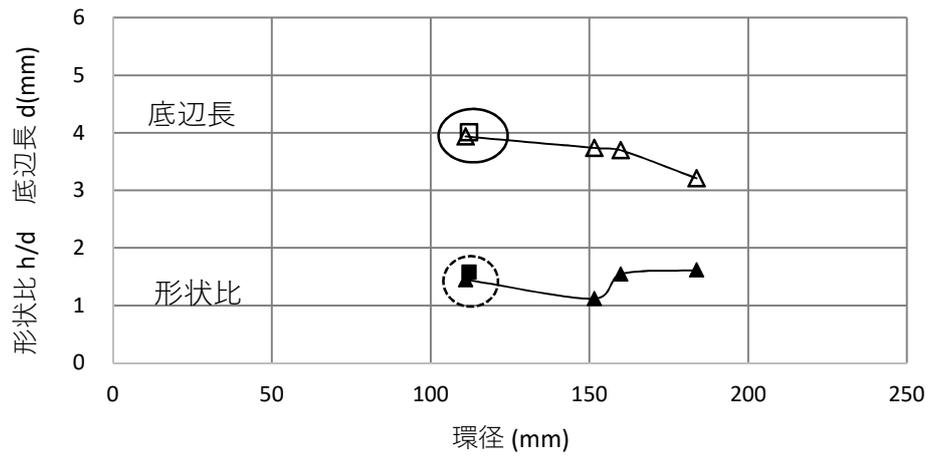
390 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(390, 346)

346 が同環である。

(390, 346)の形状比と底辺長

- 390平原7号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲ 346黒塚11号三角縁銘帯4神4獸鏡 (形状比)
- 390底辺長
- △ 346底辺長





346 黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (鏡径 220 mm)



390 平原 7 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 161 mm)

391 平原 8 号鏡は未入手であるので省略。

392 平原 9 号は 390 と同環であるので、390 で代表。

393 平原 10 号～399 平原 16 号は内行花文鏡で鋸歯環がないので省略。

400 平原 17 号

400 号はキ（虺）龍文鏡である。鋸歯文は非常に異なる。非常に細かいので、三角形にならず斜線になる。したがって、底辺とならず斜線の間隔となる。同環（数）の相手も、同じ斜線である。

400 平原 17 号キ龍文鏡（鏡径 165 mm）の同数鏡を下表に示した。

400 はキ龍文鏡である。

400 に同環鏡はなかった。

鋸歯文検定で中国鏡と判定した複数の画文帯環状乳神獸鏡と同数である。同じキ龍文鏡である富雄丸山 2 号鏡と環径の一致はよくないが同数である。三角縁神獸鏡との同環鏡も同数鏡もない。

400 平原 17 号キ龍文鏡（鏡径 165 mm）の同数鏡（環径 115, 64, 44mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
145	山梨銚子塚画文帯環状乳神獸鏡	145	115	
237	稻荷山画文帯環状乳神獸鏡	155	115	
260	浙江出土銅鏡 31	164	115	中国
329	西求女塚 6 号画文帯環状乳神獸鏡	154	115	
382	富雄丸山 2 号キ龍文鏡	191	44	

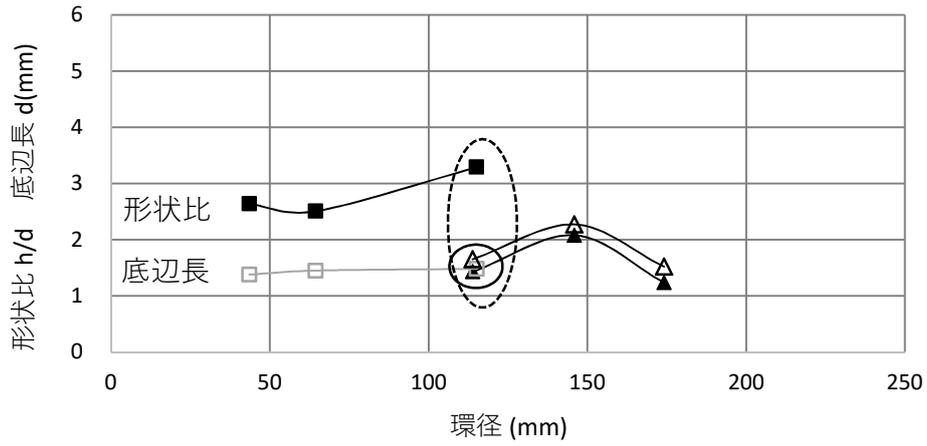
同数鏡の 1 例を以下に示した。

(400, 175)

175 が同数である。

(400, 175)の形状比と底辺長

- 400平原17号キ龍文鏡 (形状比)
- ▲ 175ホケノ山吾作同向式神獸鏡 (形状比)
- 400底辺長
- △ 175底辺長





175 ホケノ山吾作同向式神獸鏡（鏡径 191 mm）



400 平原 17 号キ龍文鏡（鏡径 165 mm）

4.2 尚方作方格規鏡の 2 環鏡の同環鏡

401 平原 18 号

401 平原 18 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

401 は三角縁神獸鏡と同環であり、中国出土の陳是作品と推定される 133 北京市収集円圈規矩鳥文鏡と陳是が参考とした中国鏡 133 城塚青蓋鏡とも同環である。L 字は中国風の逆 L 字である。

401 平原 18 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同環鏡（環径 136, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
5	神戸へボソ塚三角縁 3 神 2 獸鏡	217	116	
133	北京市収集円圈規矩鳥文鏡	166	116	中国
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	136	
318	樺井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡	220	116	

401 平原 18 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 161 mm）の同数鏡（環径 136, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
26	安満宮山 3 号三角縁獸文帯 4 神 4 獸鏡	225	116	
77	長法寺南原三角縁 4 神 4 獸鏡	230	136	
210	河南省淇県 泰始 9 年 （273 年）銘鏡	176	136	中国
298	樺井大塚山 4 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	116	
299	樺井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡（298 と同範）	221	116	
324	樺井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	136	
354	黒塚 19 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	223	116	
410	平原 27 号方格規矩 4 神鏡	158	136	

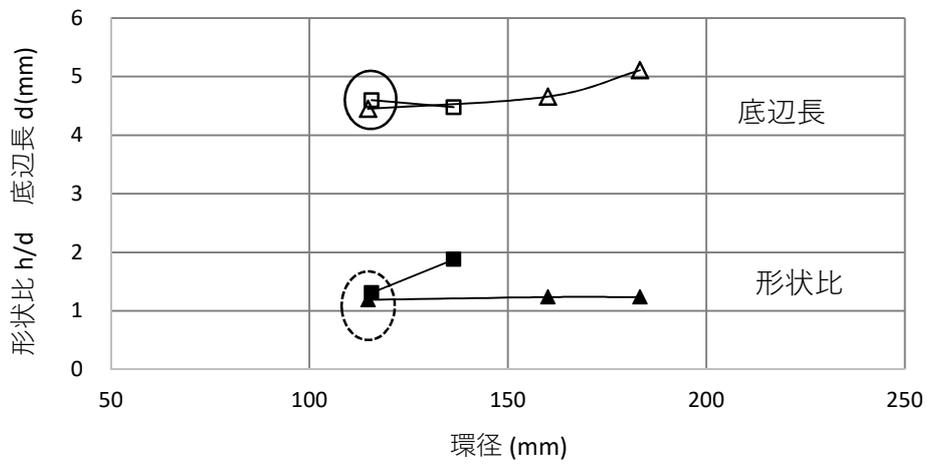
401 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(401, 318)

318 が同環である。318 は陳是作銘である。

(401, 318)の形状比と底辺長

- 401平原18号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲ 318樺井大塚山24陳是作4神2獸鏡 (形状比)
- 401底辺長
- △ 318底辺長





318 椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡 (鏡徑 220 mm)



401 平原 18 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 161 mm)

402 平原 19 号

402 平原 19 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 159 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

402 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。L 字は中国風の逆 L 字である。

平原鏡 3 面と同環である。

402 平原 19 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 159 mm）の同環鏡（環径 139,113mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
82	岡山車塚三角縁画文帯 5 神 4 獸鏡	220	113	
238	中平 4 年（187 年）神人神獸画像鏡	192	139	
341	黒塚 6 号陳是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	113	
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	113	
390	平原 7 号方格規矩 4 神鏡	161	113	
392	平原 9 号方格規矩 4 神鏡	161	113	
419	平原 36 号方格規矩 4 神鏡	162	113	

402 平原 19 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 159 mm）の同数鏡（環径 139,113mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
236	武寧王陵鏡（3）獸帯文鏡	181	139	韓国
299	椿井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	139	
311	椿井大塚山 16 獸文帯蔭 3 獸鏡	225	139	
342	黒塚 7 号陳是作銘三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	223	113	
363	黒塚 28 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	225	113	
370	王趁意氏提供鏡	183	139	

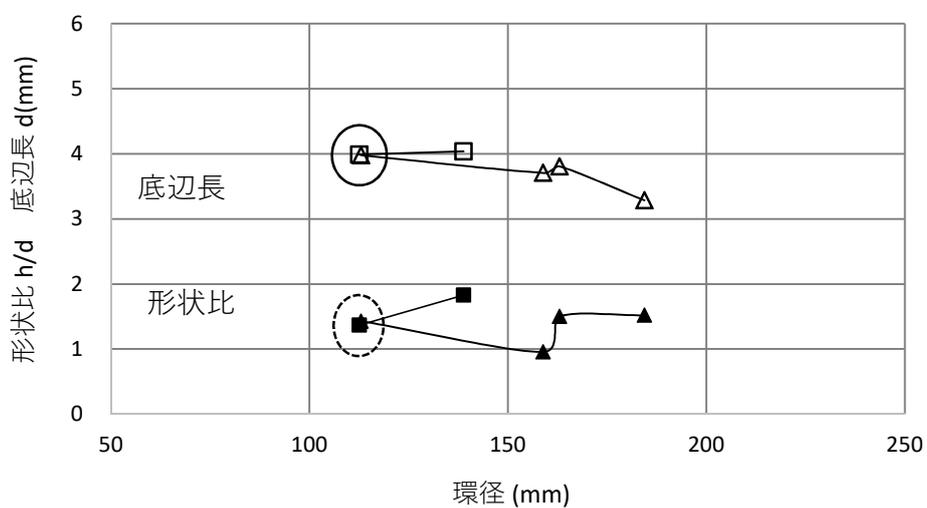
402 の同環鏡の 1 例を下表に示した。

(402, 82)

82 が同環である。

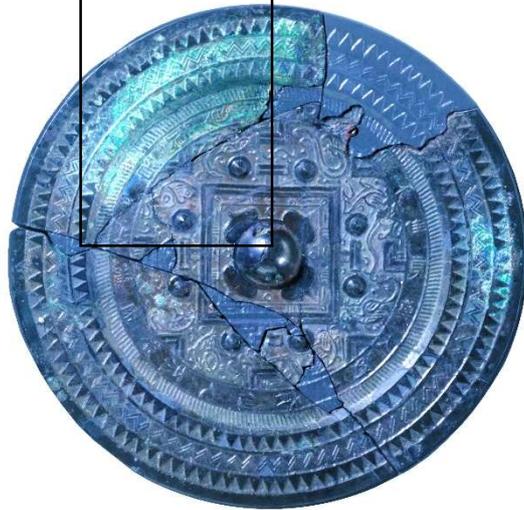
(402, 82)の形状比と底辺長

- 402平原19号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 82岡山車塚三角縁5神4獸鏡 (形状比)
- 402底辺長
- △— 82底辺長





82 岡山車塚三角縁画文帯5神4獣鏡（鏡径 220 mm）



402 平原 19 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 159 mm）

403 平原 20 号

403 平原 20 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

403 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。

陳是・陳氏銘鏡とも同環である。したがって、陳是・陳氏に倣った張是・張氏鏡とも同数となった。

L 字は中国風の逆 L 字である。

403 平原 20 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）の同環鏡（環径 162, 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
49	兵庫親王塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	215	162	
57	岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獸鏡	220	162	
58	鳥取馬の山三角縁 3 神 2 獸鏡	216	162	
61	京都長法寺南原鋸齒文帯 4 神 4 獸鏡	230	162	
165	佐賀桜馬場方格規矩鏡	232	162	
210	河南省淇県泰始 9 年銘鏡	176	132	
211	久保惣蔵泰始 9 年銘鏡	177	132	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	162	
235	武寧王陵 (2) 神獸文鏡	178	132	
294	雪野山しん出銘三角縁 4 神 4 獸鏡	242	162	
311	椿井大塚山 17 獸文帯 3 神 3 獸鏡	225	162	
318	椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡	220	162	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	132	
342	黒塚 7 号陳是作銘三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	223	162	
347	黒塚 12 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	162	
366	黒塚 31 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	162	
380	高坂古墳陳氏作三角縁 4 神 2 獸鏡	221	162	
381	富雄丸山 1 号三角縁神獸鏡	216	162	
385	平原 2 号方格規矩 4 神鏡	209	162	

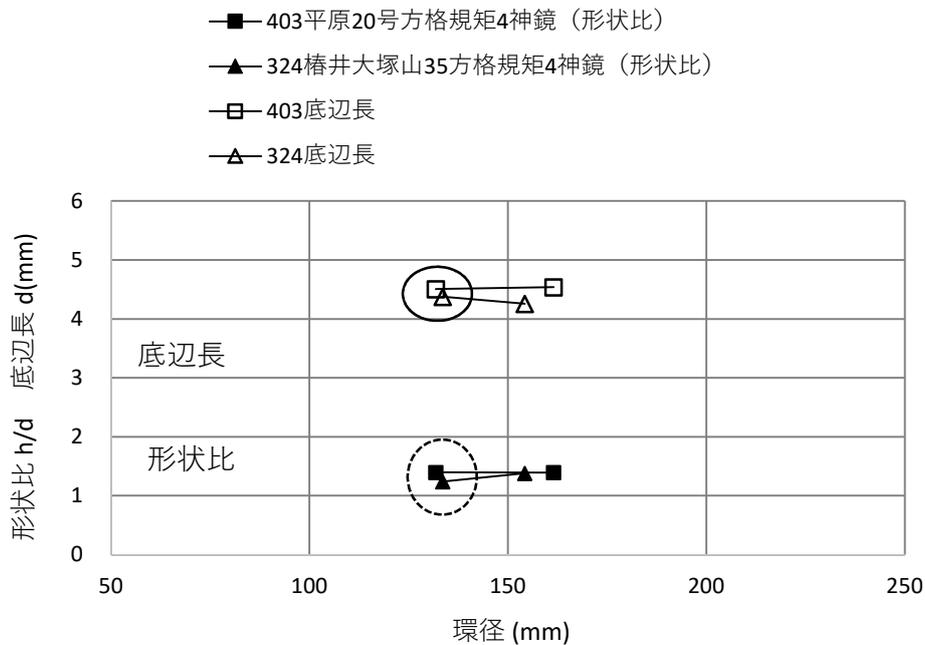
403 平原 20 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 185 mm) の同数鏡 (環径 162, 132mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
37	岐阜長塚三角縁獣文帯 3 神 3 獣鏡	216	162	
77	京都長法寺南原三角縁 4 神 4 獣鏡 (61 と同じ)	230	132	
91	景初 3 年銘大阪黄金塚画文帯同向式神獣鏡	233	162	
300	樺井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獣鏡	238	162	
310	樺井大塚山 16 獣文帯 4 神 4 獣鏡	232	132	
336	黒塚 1 号張是作銘三角縁銘帯 6 神 4 獣鏡	229	162	
356	黒塚 21 号張氏作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	237	162	
401	平原 18 号方格規矩 4 神鏡	161	132	

403 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(403, 324)

324 が同環である。同じ方格規矩鏡が同環である。しかし、324 は L 字が正 L 字であり、陳是作品であることを示している。403 は逆 L 字である。

(403, 324)の形状比と底辺長





324 椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡（鏡径 184 mm）（正 L 字である）



403 平原 20 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 185 mm）（逆 L 字である）

404 平原 21 号

404 平原 21 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

404 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。陳是・陳氏銘鏡とも複数同環である。

L 字は中国風の逆 L 字である。

404 平原 21 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同環鏡（環径 185, 160mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
1	国分茶白山三角縁 4 神 2 獸鏡	222	185	
37	岐阜長塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	216	160	
57	岡山車塚 陳是作 三角縁 4 神 2 獸鏡	220	160	
58	鳥取馬の山三角縁 3 神 2 獸鏡	216	160	
294	雪野山しん出銘三角縁 4 神 4 獸鏡	242	160	
311	椿井大塚山 17 獸文帯 3 神 3 獸鏡	225	160	
318	椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡	220	160	
342	黒塚 7 号 陳是作 銘三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	223	185, 160	
347	黒塚 12 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	160	
366	黒塚 31 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	160	
380	高坂古墳 陳氏作 三角縁 4 神 2 獸鏡	221	160	
384	平原 1 号方格規矩 4 神鏡	234	160	
385	平原 2 号方格規矩 4 神鏡	209	160	

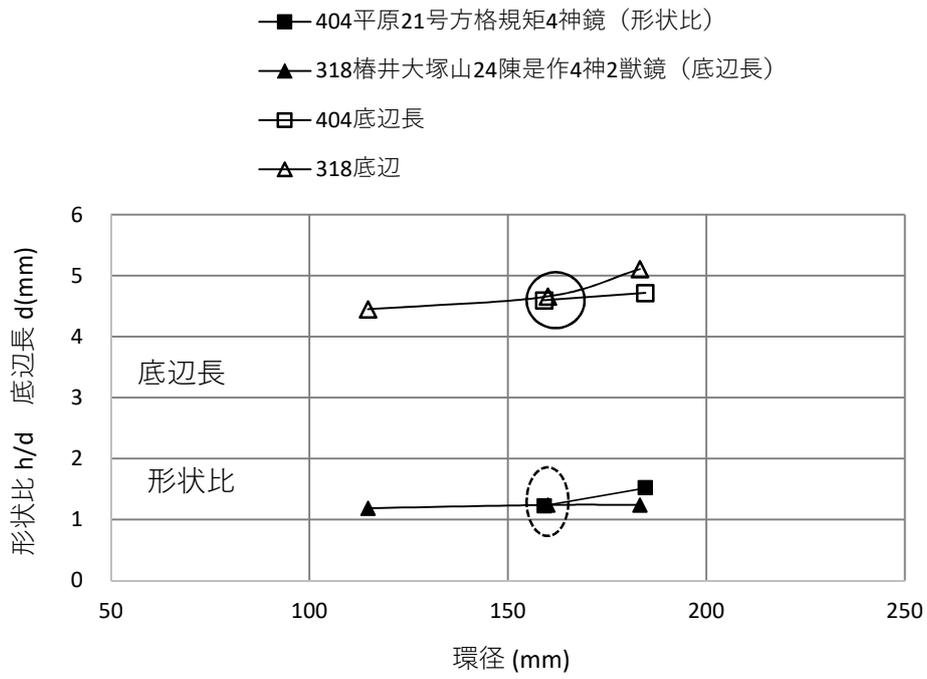
404 平原 21 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 207 mm）の同数鏡（環径 185, 160mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
34	島根大成三角縁唐草文帯 2 神 2 獸鏡	234	185	
63	福岡三角縁盤龍鏡	245	185	
91	景初 3 年銘 大阪黄金塚画文帯同向式神獸鏡	233	160	
217	沖ノ島方形帯方格規矩鏡	262	185	
300	椿井大塚山 6 張氏作 4 神 4 獸鏡	238	160	
336	黒塚 1 号 張是作 三角縁銘帯 6 神 4 獸鏡	229	160	
356	黒塚 21 号 張氏作 銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	237	160	

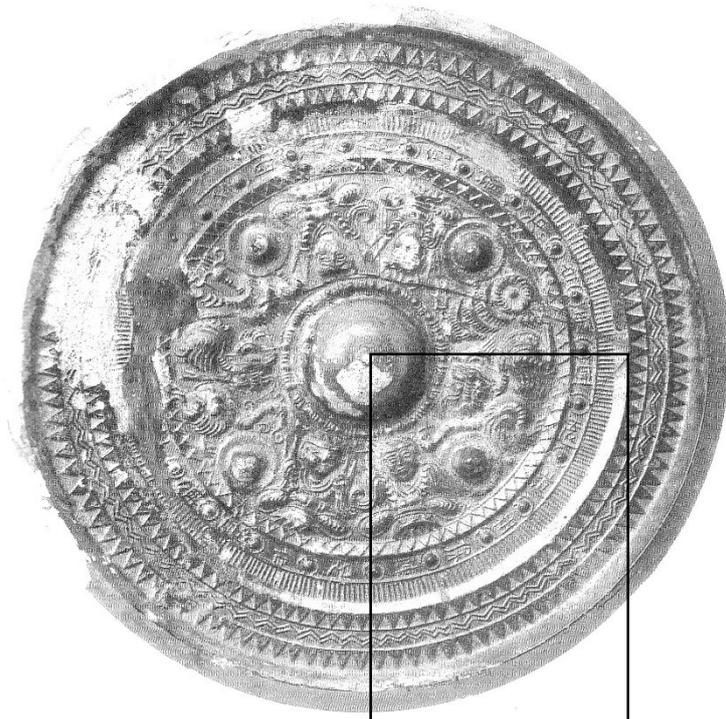
404 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

(404, 318)

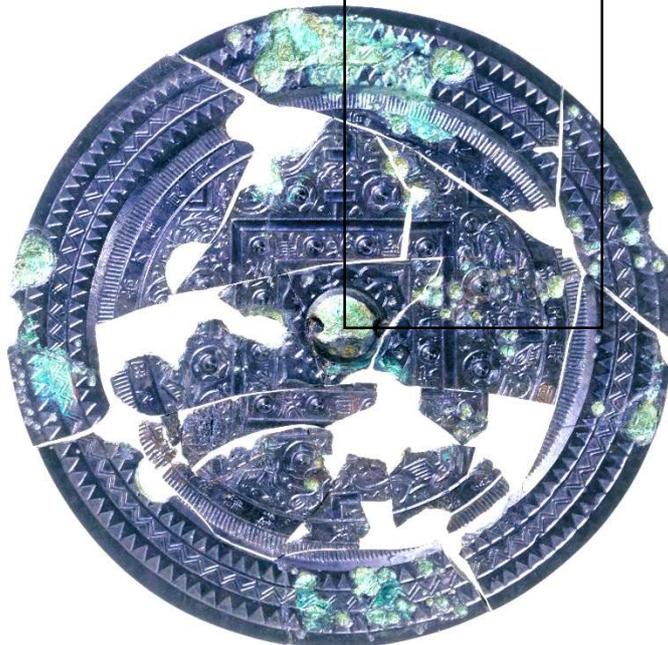
318 が同環である。318 は陳是作銘である。

(404, 318)の形状比と底辺長





318 椿井大塚山 24 陳是作 4 神 2 獸鏡 (鏡徑 220 mm)



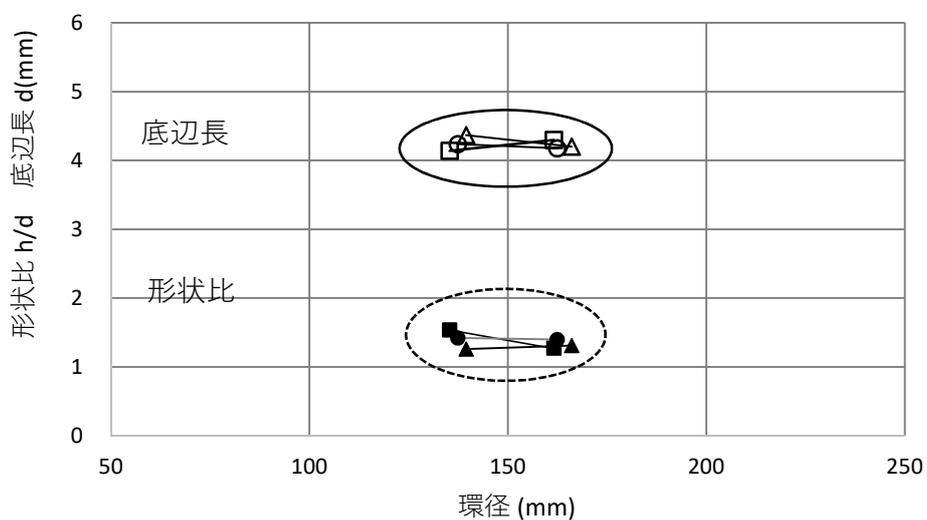
404 平原 21 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 207 mm)

405 平原 22 号

405, 407, 409 は下図に示すように同環である。したがって中庸な値を示す 409 で代表させる。

(405, 407, 409)の形状比と底辺長

- 405平原22号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 407平原24号方格規矩4神鏡 (形状比)
- 409平原26号方格規矩4神鏡 (形状比)
- 405底辺長
- △— 407底辺長
- 409底辺長



406 平原 23 号

406 平原 23 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 191 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

406 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

平原鏡とも同環・同数である。

L 字は 1 ッカ所しか見えないが、逆 L 字であり、中国風である。

406 平原 23 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 191 mm）の同環鏡（環径 139,113mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
41	京都百々ヶ池三角縁 3 仏 3 獸鏡	205	168	
285	椿井大塚山三角縁神獸鏡	233	168	
310	椿井大塚山 16 獸文帯 4 神 4 獸鏡	232	168	
344	黒塚 9 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	233	168	
383	富雄丸山 3 号画像鏡	196	142	
412	平原 29 号方格規矩 4 神鏡	165	142	

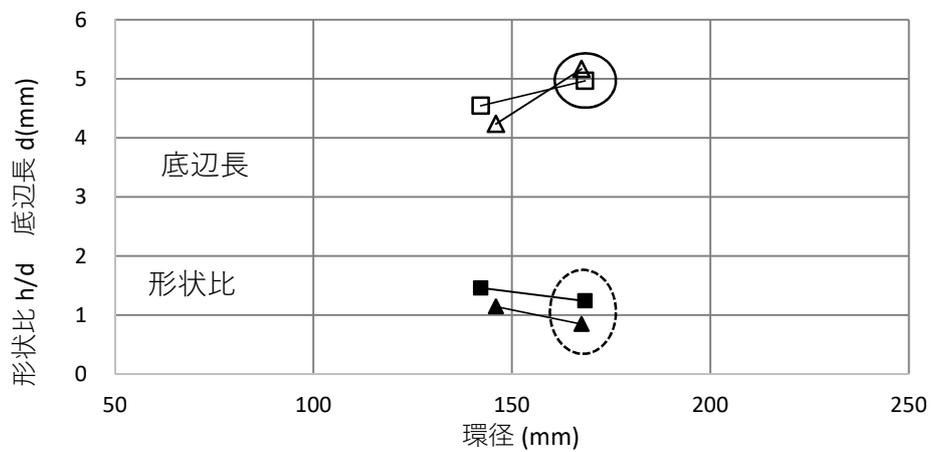
406 平原 23 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 191 mm）の同数鏡（環径 139,113mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
8	出土地不詳三角縁 2 神 2 獸鏡	210	142	
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	142	
249	造山 1 号墳方格規矩 4 神鏡	189	168	
298	椿井大塚山 4 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	142	
304	椿井大塚山 10 獸文帯 4 神 4 獸鏡	233	168	
384	平原 1 号方格規矩 4 神鏡	234	168	

(406, 249)

249 が同数である。同じ方格規矩鏡であるが、L 字は 406 が逆 L 字に対して 249 は正 L 字である。したがって、249 は陳是作品であるが、陳是は陳是流に形状比は小さくした。したがって 406 と同数となった。

(406, 249)の形状比と底辺長

- 406平原23号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 249造山1号墳方格規矩4神鏡 (形状比)
- 406底辺長
- △— 249底辺長





249 造山 1 号墳方格規矩 4 神鏡 (鏡径 189 mm)



406 平原 23 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 191 mm)

]

407 平原 24 号

407 は 409 に統一。

408 平原 25 号

未入手であるので省略。

409 平原 26 号

409 平原 26 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 183 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

409 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。

中国鏡の 166 の永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡とも同環である。

L 字は 1 ッカ所しか見えないが、逆 L 字であり中国風である。

409 は浙江出土銅鏡の 453 東漢 4 獸画像鏡と同環である。したがって 409 は中国鏡である。

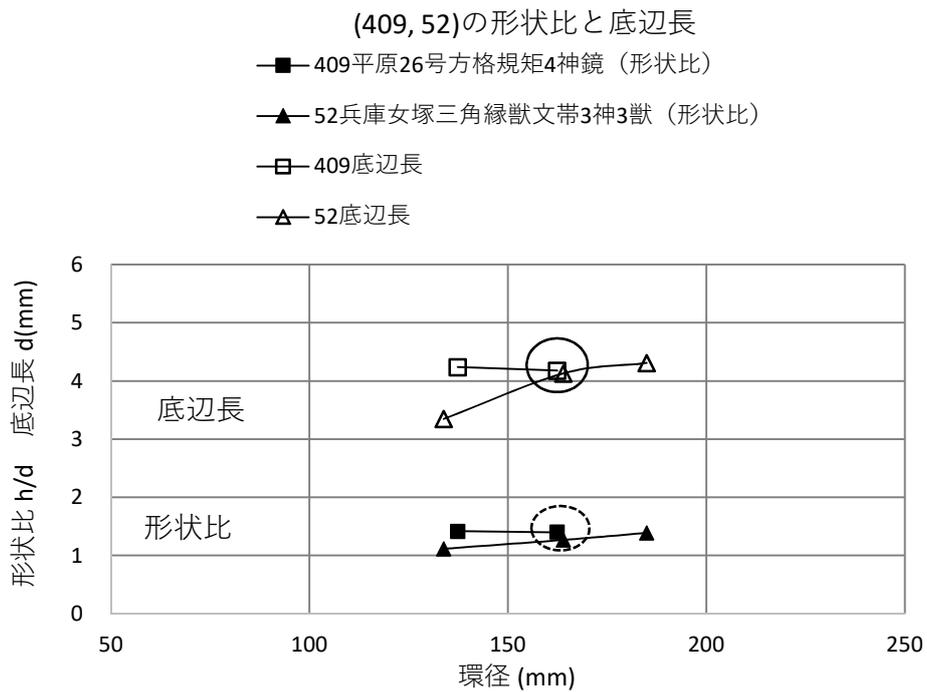
409 平原 26 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 183 mm）の同環鏡（環径 162、137 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
7	京都長法寺南原三角縁 3 神 3 獸鏡	227	137	
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	162	
52	兵庫女塚三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	221	172	
67	滋賀野洲富波三角縁 2 神 2 獸鏡	218	162	
70	京都百々ヶ池三角縁 2 神 2 獸鏡	224	162	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡	190	162, 137	中国
185	新山尚方作三角縁神獸鏡	223	162	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	162	
319	樺井大塚山 25 獸文帯 2 神 2 獸鏡	220	162	
370	王趁意氏提供鏡	183	137	
375	福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	219	162	
383	富雄丸山 3 号画像鏡	196	137	
405	平原 22 号方格規矩 4 神鏡	187	162, 137	
453	東漢 4 獸画像鏡	210	162	中国

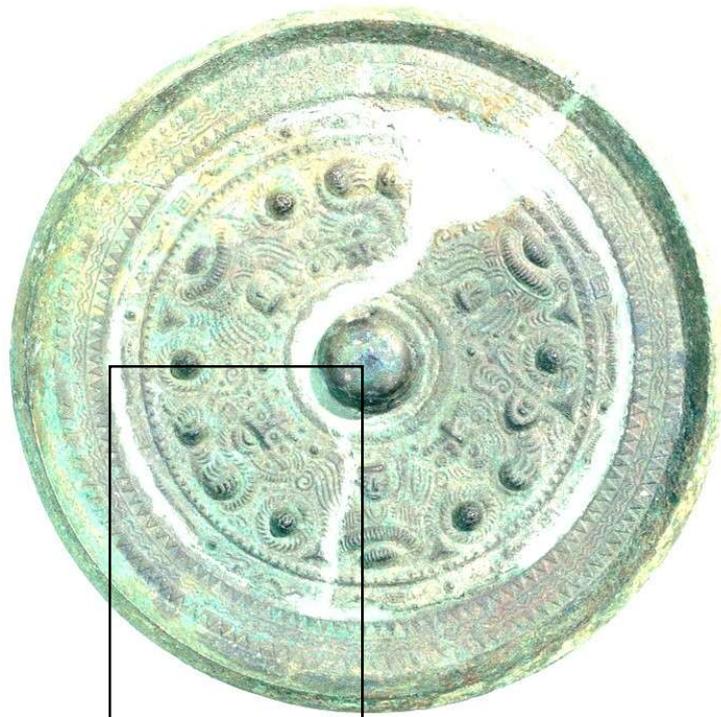
409 平原 26 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 183 mm) の同数鏡 (環径 162、137 mm)				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
322	樺井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡	218	162	
348	黒塚 13 号張是作銘銘帯 4 神 4 獸鏡	218	162	
402	平原 19 号方格規矩 4 神鏡	159	137	

409 の同環鏡の 1 例を以下に示した。

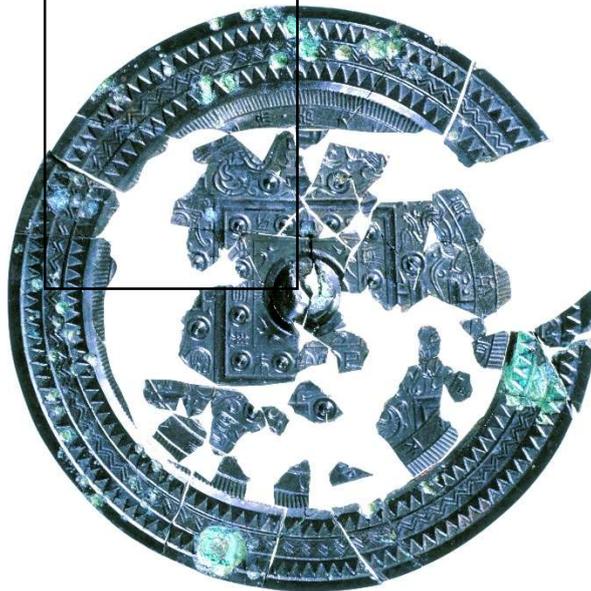
(409, 52)

52 が同環である。





52 兵庫女塚三角縁獣文帯3神3獣鏡（鏡径 221 mm）



409 平原 26 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 183 mm）

410 平原 27 号

410 平原 27 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 158 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

410 は三角縁神獸鏡と同環である。

同時に、中国鏡の 166 永平 7 年銘鏡と 210 泰始 9 年銘鏡と同環である。

また、多くの平原鏡とも同環である。

L 字は逆 L 字で中国風である。

410 平原 27 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 158 mm）の同環鏡（環径 137, 114 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
14	新山西王母三角縁神獸鏡	226	114	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡	190	137	中国
210	河南省淇県泰始 9 年（273 年）銘鏡	176	137	中国
315	椿井大塚山 21 吾作 3 神 5 獸鏡	215	114	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	114	
390	平原 7 号方格規矩 4 神鏡	161	114	
392	平原 9 号方格規矩 4 神鏡	161	114	
401	平原 18 号方格規矩 4 神鏡	161	114	
412	平原 29 号方格規矩 4 神鏡	165	114	

410 平原 27 号方格規矩 4 神鏡の同数鏡（環径 137, 114 mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獸鏡	215	114	
57	岡山車塚陳是作三角縁 4 神 2 獸鏡	220	114	
73	三重筒野三角縁 3 神 3 獸鏡	212	114	
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	137	
178	邳各庄方格規矩鳥文鏡	134	114	中国
310	椿井大塚山 16 獸文帯 4 神 4 獸鏡	232	137	

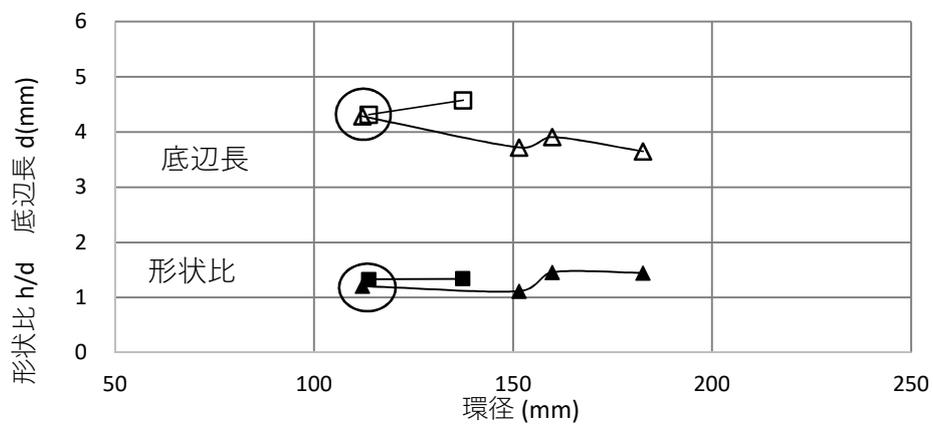
410 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

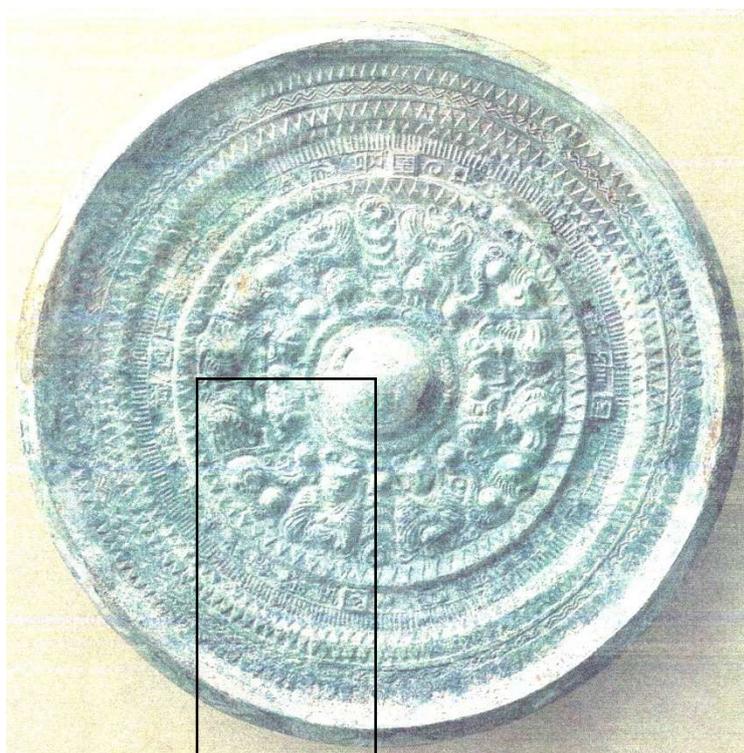
(410, 360)

360 が同環である。

(410, 360)の形状比と底辺長

- 410平原27号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 360黒塚25号三角縁4神4獸鏡 (形状比)
- 410底辺長
- △— 360底辺長





360 黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡 (鏡径 220 mm)



410 平原 27 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 158 mm)

411 平原 28 号

411 平原 28 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 182 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

411 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。

411 の L 字は逆 L 字であり中国風である。

浙江出土銅鏡の 432 と 453 と同環である。したがって 411 は中国製である。

陳是・陳氏はこの 411 の鋸齒環を日本に持ち込み、多くの三角縁神獸鏡に移植した。

411 平原 28 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 182 mm）の同環鏡（環径 157, 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
7	長法寺南原三角縁 3 神 3 獸鏡	227	132	
26	安満宮山 3 号三角縁獸文帯 4 神 4 獸鏡	225	157	
35	兵庫三つ塚三角縁 3 神 3 獸鏡	215	157	
88	大阪郡川西塚尚方作神人歌舞像鏡	206	157	
181	福岡立岩方格規矩鏡	200	157	
211	久保惣蔵泰始 9 年（273 年）銘鏡	177	132	
224	東京亀塚神人歌舞画像鏡	208	157	
241	鴨都波③斜縁波文帯 3 神 3 獸鏡	214	157	
292	雪野山三角縁波文帯盤龍鏡	247	132	
311	椿井大塚山 17 獸文帯 3 神 3 獸鏡	225	132	
319	椿井大塚山 25 獸文帯 2 神 2 獸鏡	220	157	
324	椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡	184	157, 132	
350	黒塚 15 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	222	157	
370	王趁意氏提供鏡	183	157, 132	
386	平原 3 号方格規矩 4 神鏡	210	157	
432	東漢博局禽獸鏡	183	157、132	中国
453	東漢 4 獸画像鏡	210	157	中国

411 平原 28 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 182 mm）の同環鏡（環径 157, 132mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地

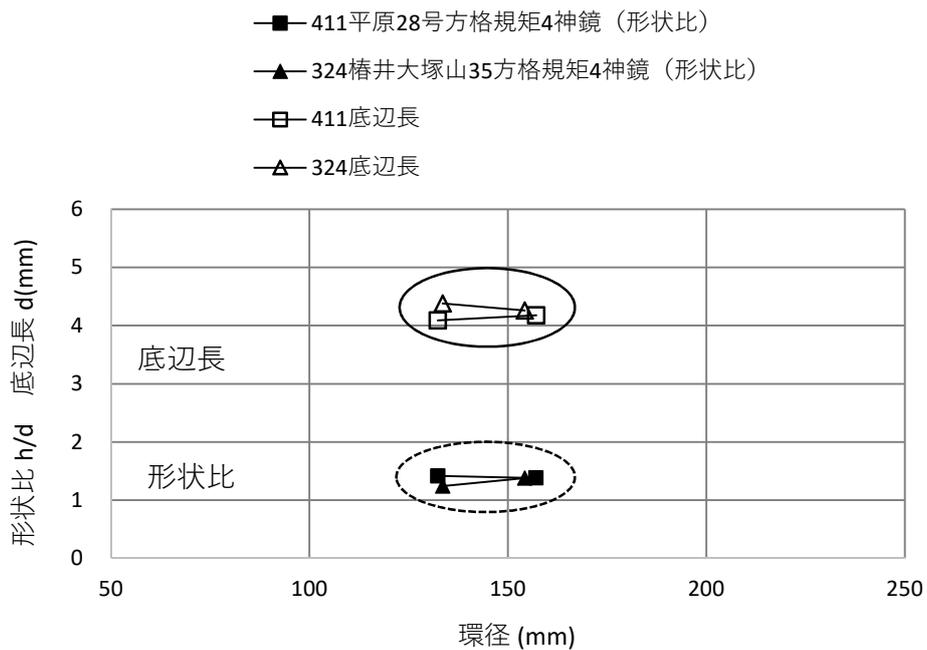
62	山口宮の洲三角縁波文帯盤龍鏡	244	132	
63	福岡藤崎三角縁盤龍鏡	245	132	
71	山口宮の洲三角縁2神2獸鏡	224	157	
73	三重筒野三角縁3神3獸鏡	212	132	
301	椿井大塚山7張氏作3神5獸鏡	226	157	
322	椿井大塚山28張是作4神4獸鏡	218	157	
340	黒塚5号三角縁獸帯5神4獸鏡	225	157	

411 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(411, 324)

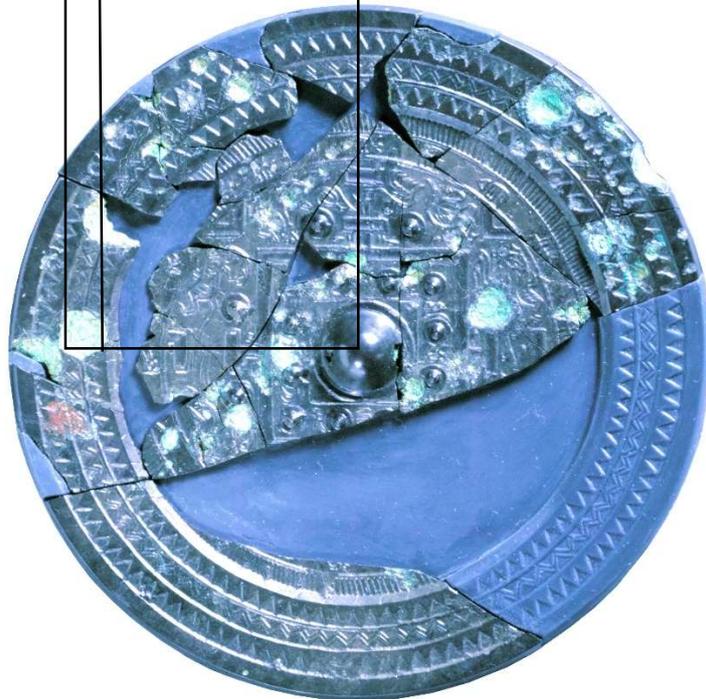
324 が同環である。同じ方格規矩鏡であるが 324 は正 L 字である。411 は逆 L 字のように見える。

(411, 324)の形状比と底辺長





324 椿井大塚山 35 方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 184 mm)



411 平原 28 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 182 mm)

412 平原 29 号

412 平原 29 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 165 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

412 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。

また、中国出土の **178 邳各庄出土鏡**とも同環である。

L 字は逆 L 字であり中国風である。

412 平原 29 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 165 mm）の同環鏡（環径 143, 115mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
4	前橋三角縁 4 神 4 獸鏡	215	115	
21	安満宮山 5 号 陳是作 平縁同向式神獸鏡	176	115	
57	岡山車塚 陳是作 三角縁 4 神 2 獸鏡	220	115	
178	邳各庄 方格規矩鳥文鏡	134	115	中国
336	黒塚 1 号 張是作 銘銘帯三角縁 6 神 4 獸鏡	229	115	
340	黒塚 5 号三角縁獸帯 5 神 4 獸鏡	225	115	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	115	
383	富雄丸山 3 号画像鏡	196	143	
406	平原 23 号方格規矩 4 神鏡	191	143	
410	平原 27 号方格規矩 4 神鏡	158	115	

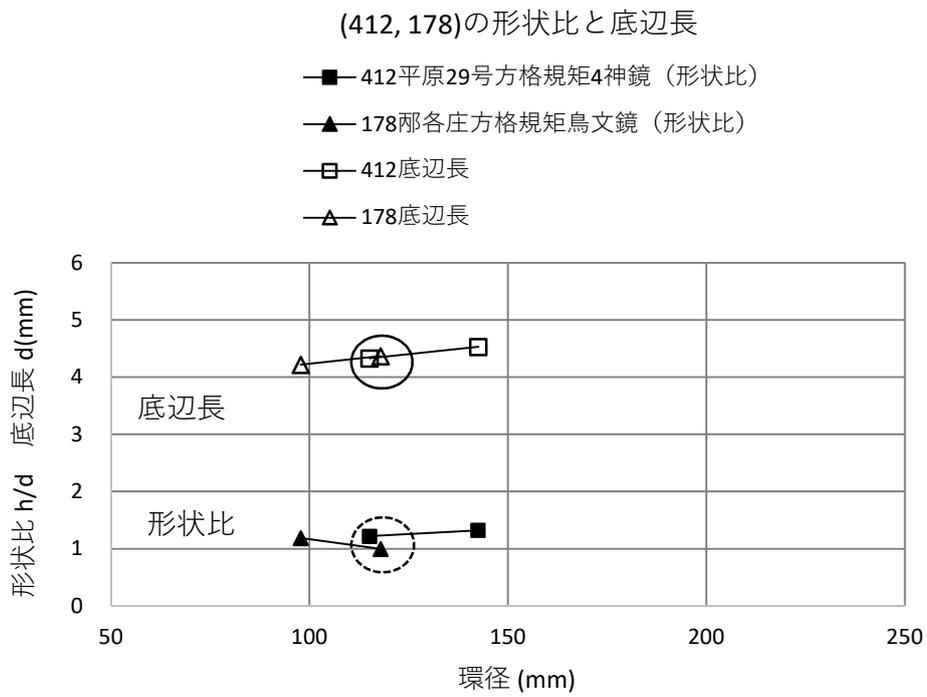
412 平原 29 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 165 mm）の同数鏡（環径 143, 115mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
8	出土地不詳三角縁 2 神 2 獸鏡	210	143	
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	143	
310	椿井大塚山 16 獸文帯 4 神 4 獸鏡	232	143	

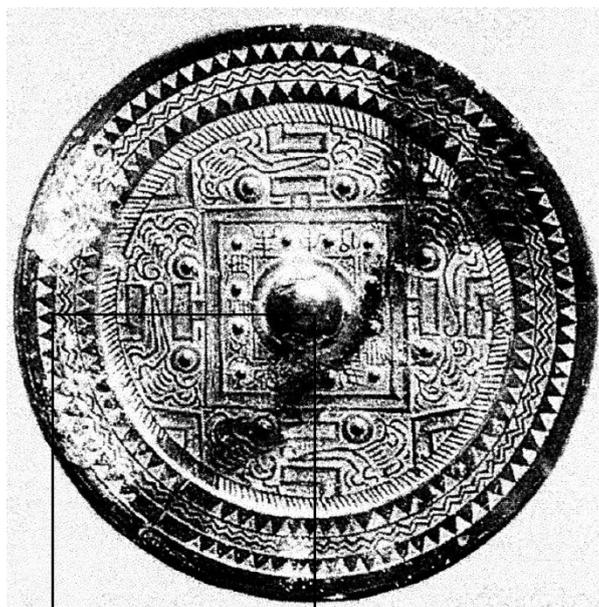
412 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(412, 178)

178 が同環である。

412 は逆L字であるが、178 は正L字である。





178 邴各庄方格規矩鳥文鏡（鏡徑 134 mm）



412 平原 29 号方格規矩 4 神鏡（鏡徑 165 mm）

413 平原 30 号

413 平原 30 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 189 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

413 は、数は少ないが三角縁神獸鏡と同環である。

L 字は逆 L 字で中国風である。

413 平原 30 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 189 mm）の同環鏡（環径 165, 140mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
74	島根造山三角縁 3 神 3 獸鏡	240	165	
77	長法寺南原三角縁 4 神 4 獸鏡	230	165	
310	椿井大塚山 16 獸文帯 4 神 4 獸鏡（77 と同範）	232	165	
371	佐賀谷口三角縁 3 神 3 獸鏡	216	165	

413 平原 30 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 189 mm）の同数鏡（環径 165, 140mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
167	岐阜城塚青蓋鏡	203	140	

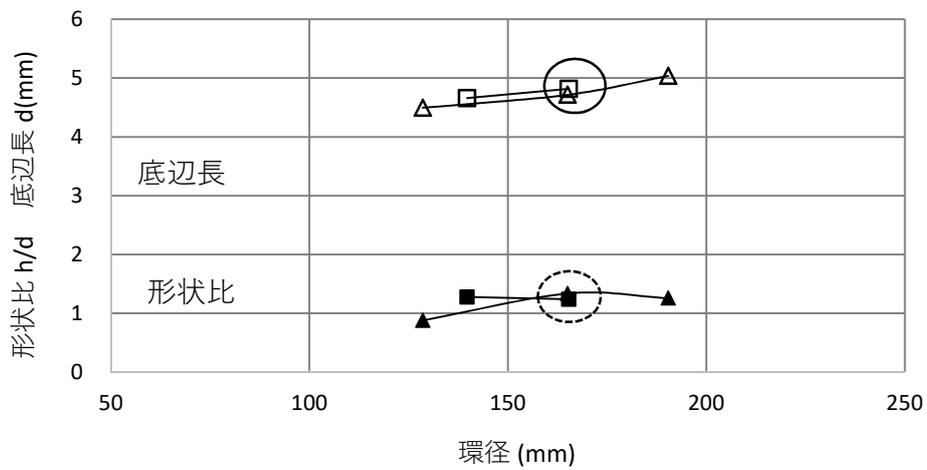
363 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(413, 61)

61 が同環である。

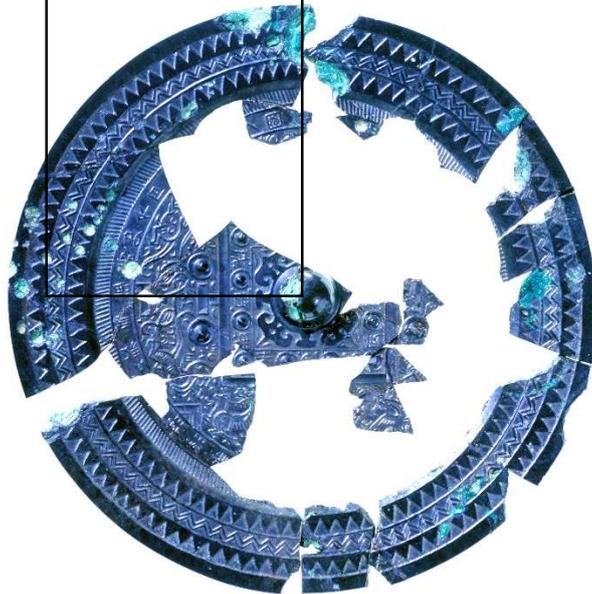
(413, 61)の形状比と底辺長

- 413平原30号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲— 61長法寺南原三角縁鋸齒文鏡 (形状比)
- 413底辺長
- △— 61底辺長





61 長法寺南原三角縁鋸齒文帯4神4獸鏡（鏡径 230 mm）



413 平原 30 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 189 mm）

414 平原 31 号

414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

414 は三角縁神獸鏡とも同環・同数であるが、中国と 166 永平 7 年（64 年）鏡と 238 中平 4 年（187 年）鏡と同環である。

414 の L 字は逆 L 字であり、中国風である。

414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡（環径 167, 142mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
9	金崎三角縁 2 神 2 獸鏡	208	167	
67	滋賀野洲富波三角縁 2 神 2 獸鏡	218	167	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡	190	167, 142	中国
236	武寧王陵鏡 (3) 獸帶文鏡	181	142	韓国
238	中平 4 年（187 年）神人神獸画像鏡	192	142	中国
295	椿井大塚山 1 三角縁 4 神 4 獸鏡	219	167	
370	王趁意氏提供鏡	183	142	
383	富雄丸山 3 号画像鏡	196	142	
407	平原 24 号方格規矩 4 神鏡	188	167	
419	平原 36 号方格規矩 4 神鏡	162	142	

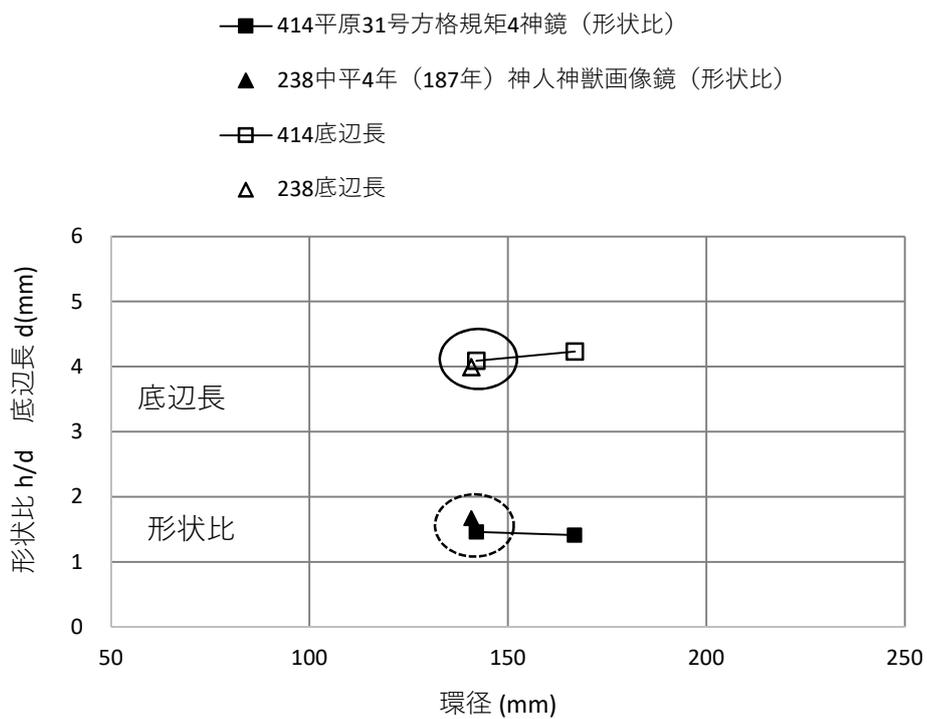
414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同数鏡（環径 167, 142mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
83	奈良佐味田三角縁対置式神獸鏡	218	167	
299	椿井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	142	
348	黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	167	
375	福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	219	167	

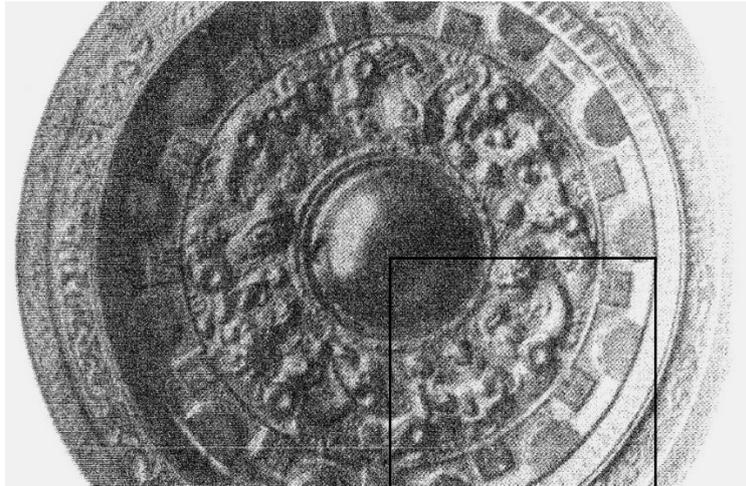
414 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(414, 238)

238 が同環である。238 は中国の後漢鏡である。

(414, 238) の形状比と底辺長





238 中平 4 年（187 年）神人神獸画像鏡（鏡徑 192 mm）



414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡徑 186 mm）

4.3 陶氏作方格規矩4神鏡の同環鏡

ここからは陶氏作銘となっている鏡についてである。

414 平原 31 号

414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

414 は三角縁神獸鏡とも同環・同数であるが、中国と 166 永平 7 年（64 年）鏡と 238 中平 4 年（187 年）鏡と同環である。

414 の L 字は逆 L 字であり、中国風である。

414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡（環径 167, 142mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
9	金崎三角縁 2 神 2 獸鏡	208	167	
67	滋賀野洲富波三角縁 2 神 2 獸鏡	218	167	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡	190	167, 142	中国
236	武寧王陵鏡 (3) 獸帶文鏡	181	142	韓国
238	中平 4 年（187 年）神人神獸画像鏡	192	142	中国
295	椿井大塚山 1 三角縁 4 神 4 獸鏡	219	167	
370	王趁意氏提供鏡	183	142	
383	富雄丸山 3 号画像鏡	196	142	
407	平原 24 号方格規矩 4 神鏡	188	167	
419	平原 36 号方格規矩 4 神鏡	162	142	

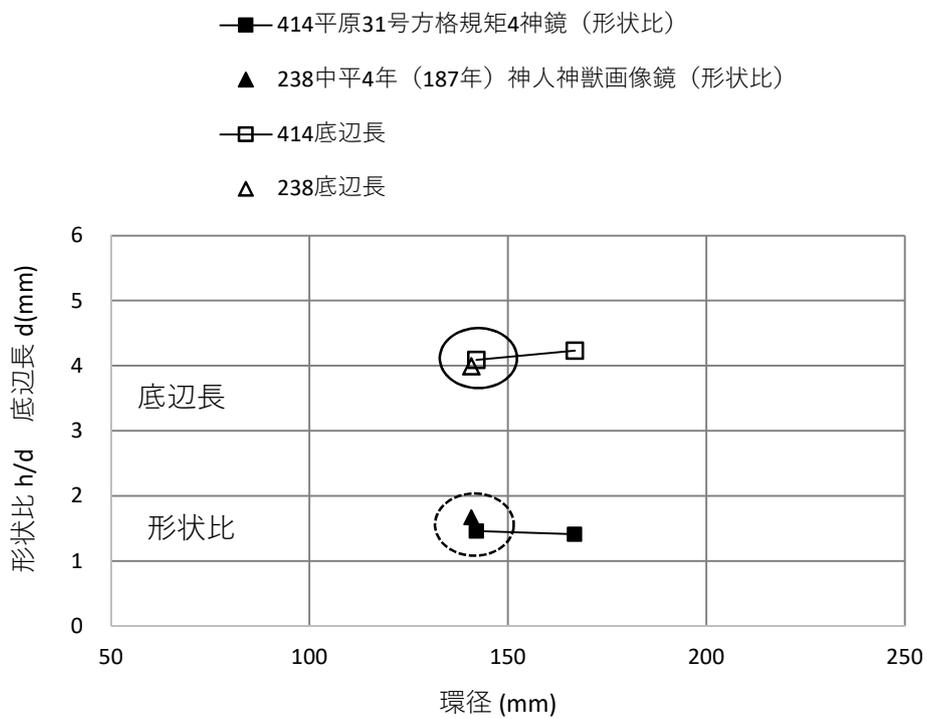
414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同数鏡（環径 167, 142mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
83	奈良佐味田三角縁対置式神獸鏡	218	167	
299	椿井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	142	
348	黒塚 13 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	218	167	
375	福岡原口三角縁獸文帯 3 神 3 獸鏡	219	167	

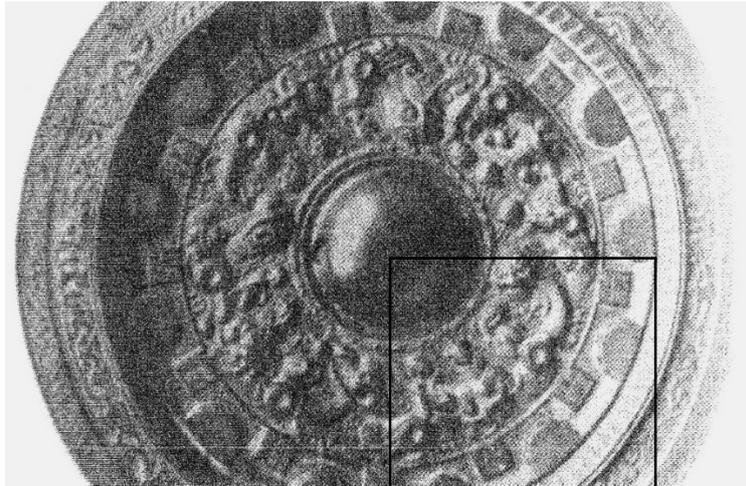
414 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(414, 238)

238 が同環である。

(414, 238) の形状比と底辺長





238 中平 4 年 (187 年) 神人神獸画像鏡 (鏡徑 192 mm)



414 平原 31 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 186 mm)

415 平原 32 号

415 平原 32 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

415 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

L 字は逆 L 字であり中国風である。

415 平原 32 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡（環径 168, 140mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
25	安満宮山 1 号三角縁 4 神 4 獸鏡	218	168	
81	兵庫吉島三角縁唐草文帯 4 神 4 獸鏡	234	168	
283	新山ダ龍鏡	272	168	
331	西求女塚 8 号三角縁吾作 4 神 4 獸鏡	198	140	
339	黒塚 4 号吾作三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	200	140	
416	平原 33 号方格規矩 4 神鏡	188	168, 140	

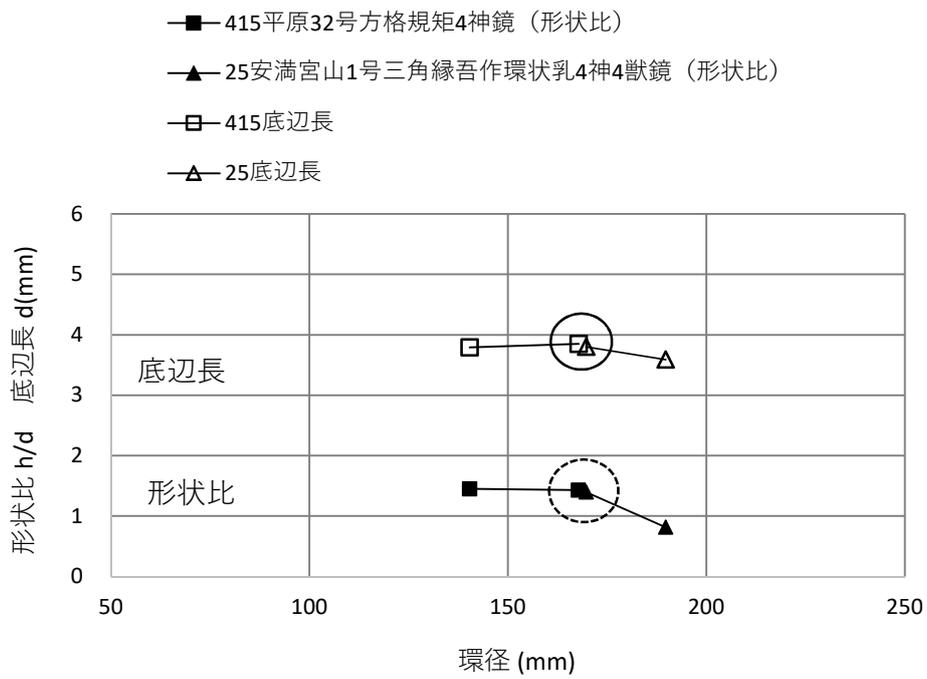
415 平原 32 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡（環径 168, 140mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獸鏡	222	168	
296	椿井大塚山 2 吾作 4 神 4 獸鏡	198	140	
340	黒塚 5 号三角縁獸帯 5 神 4 獸鏡	225	168	

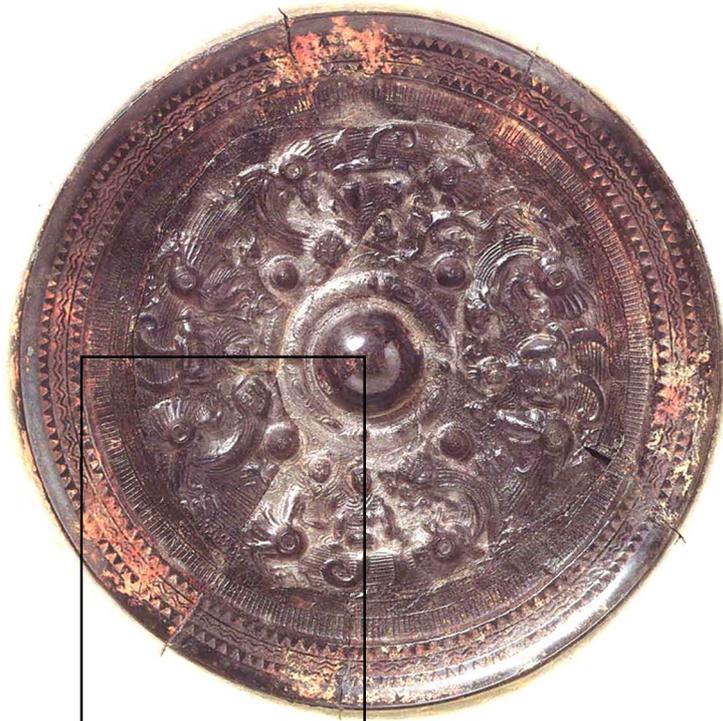
415 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(415, 25)

25 が同環である。

(415, 25)の形状比と底辺長





25 安満宮山 1 号三角縁 4 神 4 獣鏡 (鏡径 218 mm)



415 平原 32 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 188 mm)

416 平原 33 号鏡

415 と同範であるので省略。

417 平原 34 号

417 平原 34 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 166 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

417 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

236 **武寧王陵鏡 (3)** は 144 mm の環径で多くの三角縁神獸鏡と同環であるので、ここでも 417 と同環となった。

238 **中平 4 年**銘鏡とも同数である。。

417 の L 字は逆 L 字であり、中国風である。

417 平原 34 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 166 mm）の同環鏡（環径 144, 119mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
154	兵庫笹倉亀山同向式画文帯神獸鏡	148	119	
236	武寧王陵 (3) 獸帯文鏡	181	144	韓国
299	椿井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	144	
358	黒塚 23 号三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡	219		
418	平原 35 号方格規矩 4 神鏡	166	144, 119	

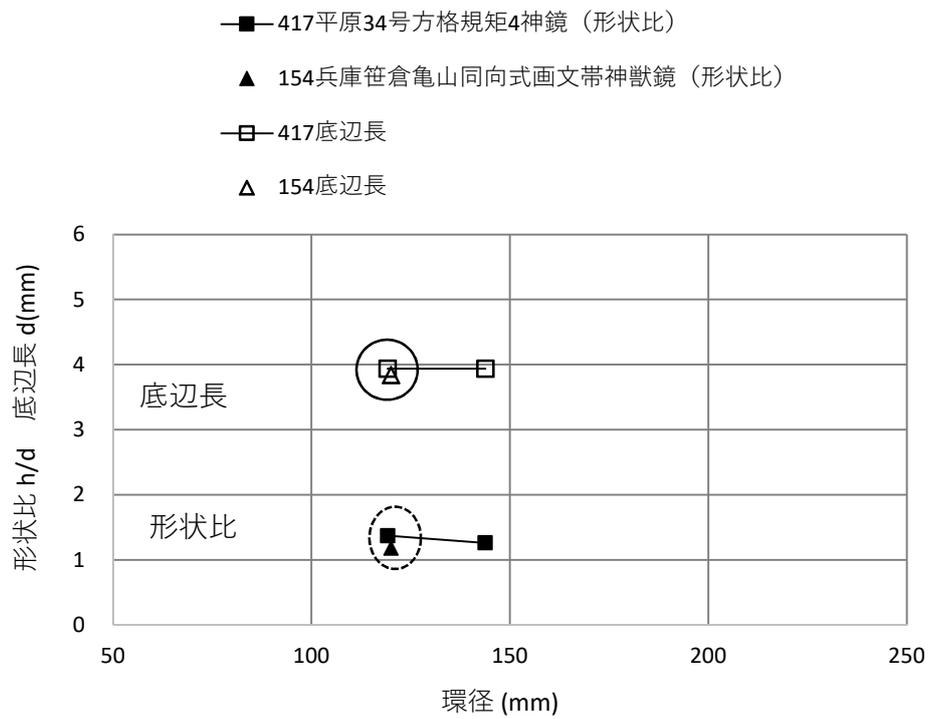
417 平原 34 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 166 mm）の同数鏡（環径 144, 119mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
238	中平 4 年 (187 年) 神人神獸画像鏡	192	144	中国
342	黒塚 7 号 陳是作 銘三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	223	119	

417 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(417, 154)

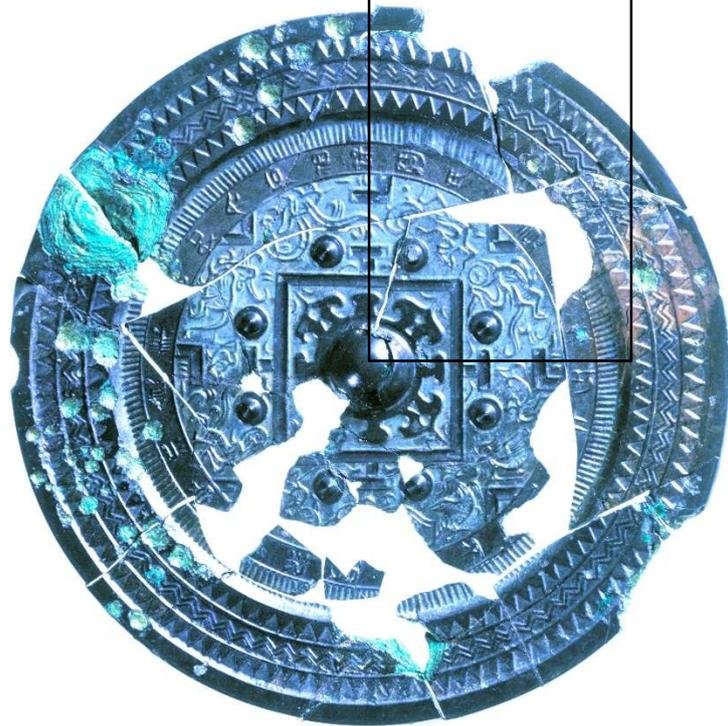
154 が同環である。

(417, 154)の形状比と底辺長





154 兵庫笹倉亀山同向式画文帯神獸鏡（鏡径 148 mm）



417 平原 34 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 166 mm）

418 平原 35 号

417 と同範であるため省略

419 平原 36 号

419 平原 36 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 162 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

419 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

236 の**武寧王陵**鏡とも 238 の**中平 7 年**（187 年）鏡とも同環である。

多くの平原鏡と同環である。

L 字は欠落していて不明である。

419 は浙江出土銅鏡 432 東漢博局禽獸鏡とも同環である。したがって 419 は中国鏡である。

419 平原 36 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 162 mm）の同環鏡（環径 141, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
82	岡山車塚三角縁画文帯 5 神 4 獸鏡	220	116	
236	武寧王陵 (3) 獸帯文鏡	181	141	韓国
238	中平 4 年 (187 年) 神人神獸画像鏡	192	141	中国
346	黒塚 11 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	116	
358	黒塚 23 号三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡	219	141	
390	平原 7 号方格規矩 4 神鏡	161	116	
392	平原 9 号方格規矩 4 神鏡	161	116	
402	平原 19 号方格規矩 4 神鏡	159	116	
417	平原 34 号方格規矩 4 神鏡	166	141, 116	
418	平原 35 号方格規矩 4 神鏡	166	141, 116	
432	東漢博局禽獸鏡	183	141	中国

419 平原 36 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 162 mm）の同数鏡（環径 141, 116mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
299	樺井大塚山 5 櫛波紋帯 4 神 4 獸鏡	221	141	
363	黒塚 28 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	225	116	

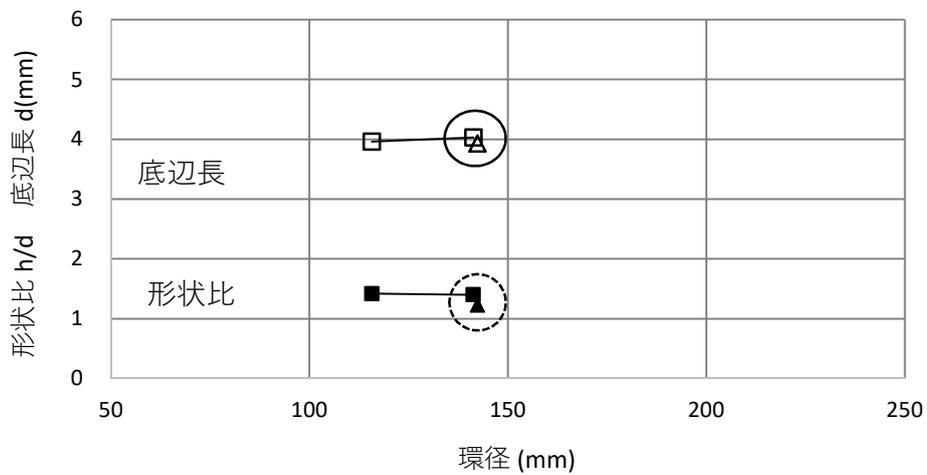
419 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(419, 236)

236 が同環である。

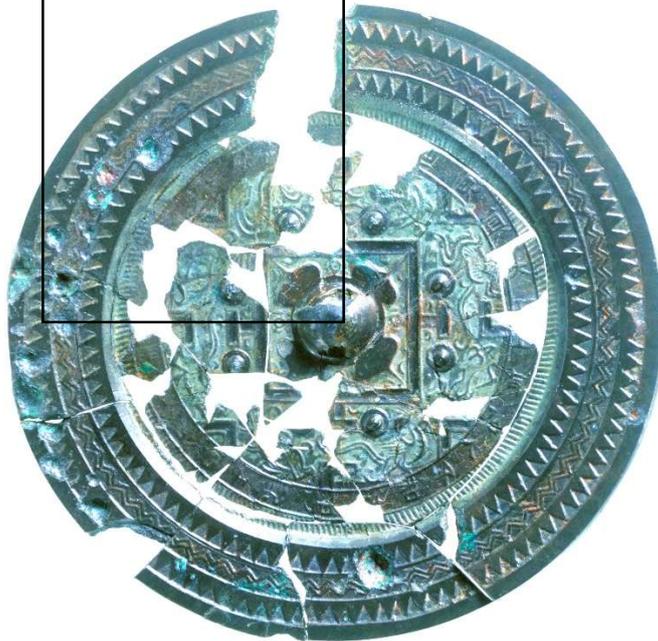
(419, 236)の形状比と底辺長

- 419平原36号方格規矩4神鏡（形状比）
- ▲— 236武寧王陵（3）獸帯文鏡（形状比）
- 419底辺長
- △— 236底辺長





236 武寧王陵 (3) 獸帶文鏡 (鏡徑 181 mm)



419 平原 36 号方格規矩 4 神鏡 (鏡徑 162 mm)

420 平原 37 号

420 平原 37 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 164 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

420 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

262 の**聖仏鎮**鏡とも同環である。262 は陳氏作銘の三角縁神獸鏡と同環であるため、中国での陳氏作品と考えられる鏡である。

L 字はよく見えない。

420 平原 37 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 164 mm）の同環鏡（環径 140, 118mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
64	岡山鶴山丸山変形 4 禽鏡	169	140	
262	聖仏鎮 円圈規矩鳥文鏡	155	118	中国
310	椿井大塚山 16 獸文帯 4 神 4 獸鏡	232	118	
322	椿井大塚山 28 張是作 4 神 4 獸鏡	218	118	
374	福岡那珂三角縁 5 神 4 獸鏡	218	118	

420 平原 37 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 164 mm）の同数鏡（環径 140, 118mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同数の環径 (mm)	出土地
154	兵庫笹倉龜山同向式画文帯神獸鏡	148	118	
297	椿井大塚山 3 吾作 4 神 4 獸鏡	198	140	

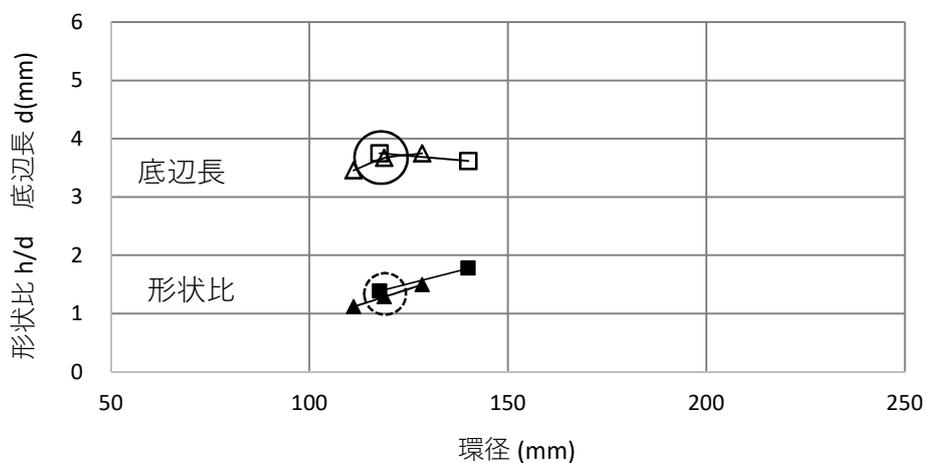
420 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

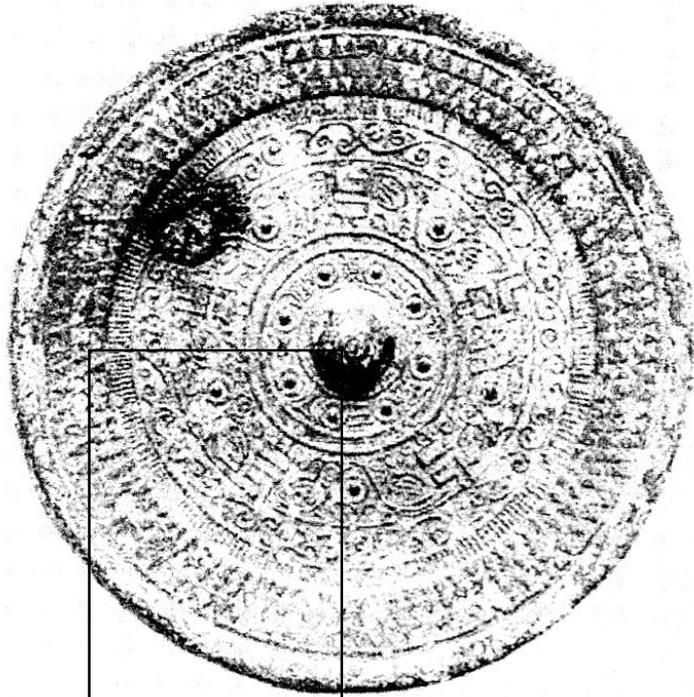
(420, 262)

262 が同環である。

(420, 262)の形状比と底辺長

- 420平原37号方格規矩4神鏡 (形状比)
- ▲ 262聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡 (形状比)
- 420底辺長
- △ 262底辺長





262 聖仏鎮円圈規矩鳥文鏡（鏡径 155 mm）



420 平原 37 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 164 mm）

421 平原 38 号

421 平原 38 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

421 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。

陳氏作銘鏡とも同環である。

L は逆 L 字であり、中国風である。

421 は浙江出土鏡の 432 東漢博局禽獸鏡と同環である。したがって 421 は中国鏡である。

421 平原 38 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡（環径 164, 135mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
71	山口宮の洲三角縁 2 神 2 獸鏡	224	164	
95	山梨銚子塚陳氏作神獸車馬鏡	221	164	
239	鴨都波①斜縁 2 神 4 獸鏡	185	135	
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226	164	
353	黒塚 18 号張氏作銘三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡	226	164	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	164	
432	東漢博局禽獸鏡	183	135	中国

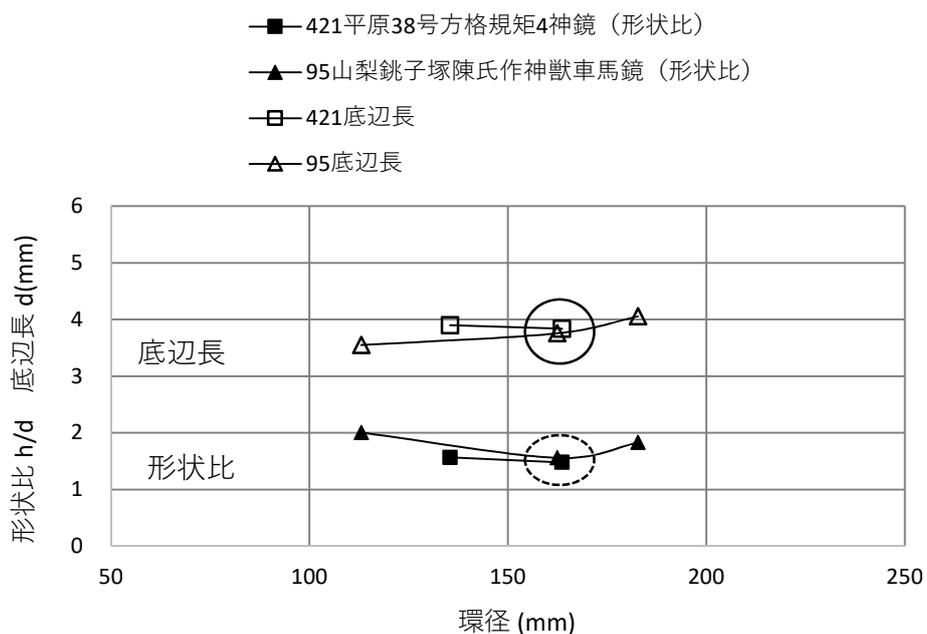
421 平原 38 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 188 mm）の同環鏡（環径 164, 135mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
5	神戸へボソ塚三角縁 3 神 2 獸鏡	217	164	
11	前橋三角縁 5 神 4 獸鏡	223	164	
216	沖ノ島三角縁 2 神 2 獸鏡	222	164	
340	黒塚 5 号三角縁獸帯 5 神 4 獸鏡	225	164	
363	黒塚 28 号三角縁獸帯 4 神 4 獸鏡	225	164	

421 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(421, 95)

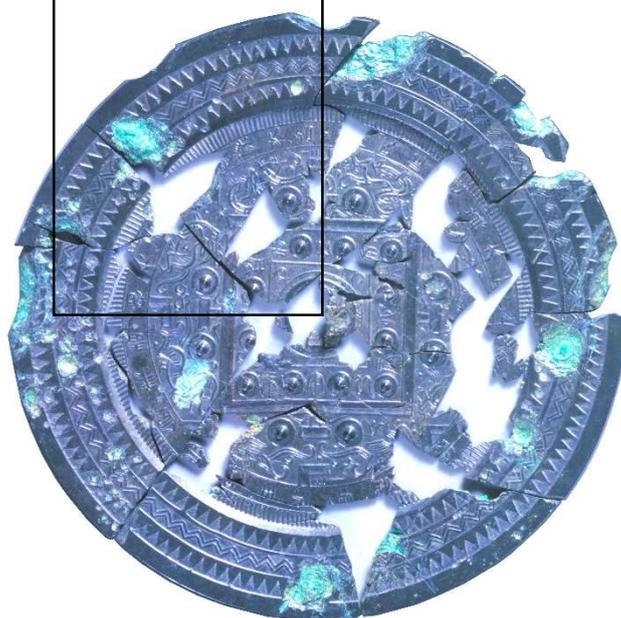
95 が同環である。

(421, 95)の形状比と底辺長





95 山梨銚子塚陳氏作神獸車馬鏡（鏡徑 221 mm）



421 平原 38 号方格規矩 4 神鏡（鏡徑 188 mm）

422 平原 39 号

422 平原 39 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

422 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。

166 永平 7 年鏡と 190 長江出土鏡（2）の中国出土鏡とも同環である。

386 の平原鏡とも同環である。

L 字は逆 L 字であり中国風である。

422 は浙江出土銅鏡 432 東漢博局禽獸鏡と同環である。したがって 422 は中国鏡である。

422 平原 39 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡（環径 162, 136mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
70	百々ヶ池三角縁 2 神 2 獸鏡	224	162	
71	山口宮の洲三角縁 2 神 2 獸鏡（70 と同範）	224	162	
82	岡山車塚三角縁画文帯 5 神 4 獸鏡	220	162	
95	山梨銚子塚陳氏作神獸車馬鏡	221	162	
162	百々ヶ池変形獸帯鏡	215	162	
166	永平 7 年（64 年）尚方作獸帯鏡	190	162	中国
190	長江流域鏡（2）尚方神人鳥獸画像鏡	180	136	中国
301	椿井大塚山 7 張氏作 3 神 5 獸鏡	226	162	
353	黒塚 18 号三角縁銘帯 3 神 5 獸鏡	226	162	
360	黒塚 25 号三角縁銘帯 4 神 4 獸鏡	220	162	
386	平原 3 号方格規矩 4 神鏡	210	162	
432	東漢博局禽獸鏡	183	162、136	中国

422 平原 39 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 186 mm）の同環鏡（環径 162, 136mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
5	神戸へボソ塚三角縁 3 神 2 獸鏡	217	162	
11	前橋三角縁 5 神 4 獸鏡	223	162	
295	椿井大塚山 1 三角縁 4 神 4 獸鏡	219	162	
320	椿井大塚山 26 獸文帯 4 神 4 獸鏡	224	162	

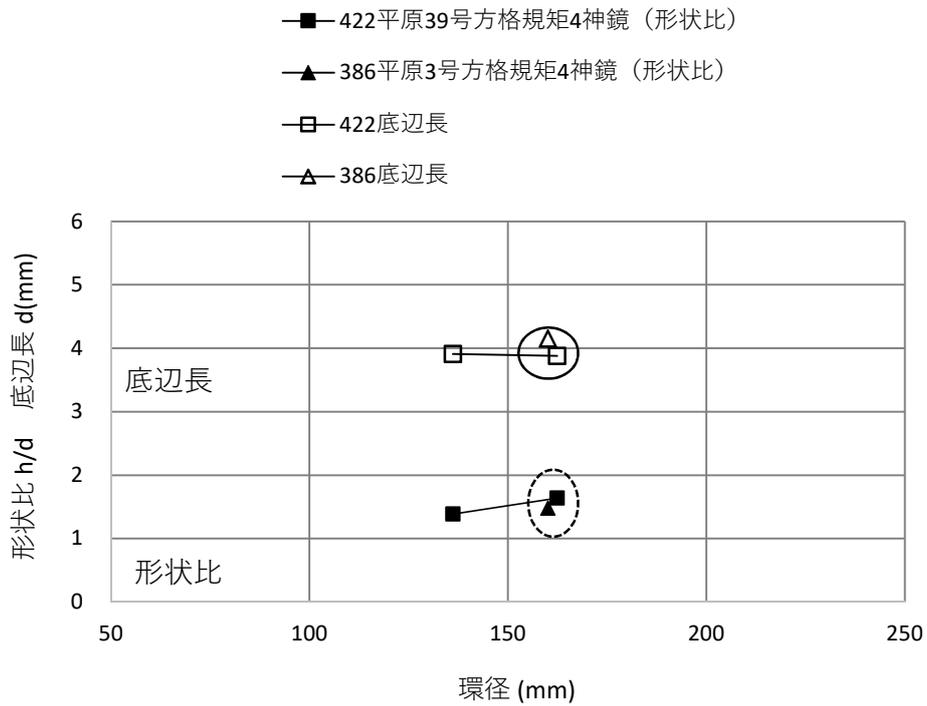
340	黒塚 5 号三角縁獣帯 5 神 4 獣鏡	225	162	
361	黒塚 26 号張是作銘三角縁銘帯 4 神 4 獣鏡	218	162	
363	黒塚 28 号三角縁獣帯 4 神 4 獣鏡	225	162	

422 の同環鏡の 1 例を下記に示した。

(422, 386)

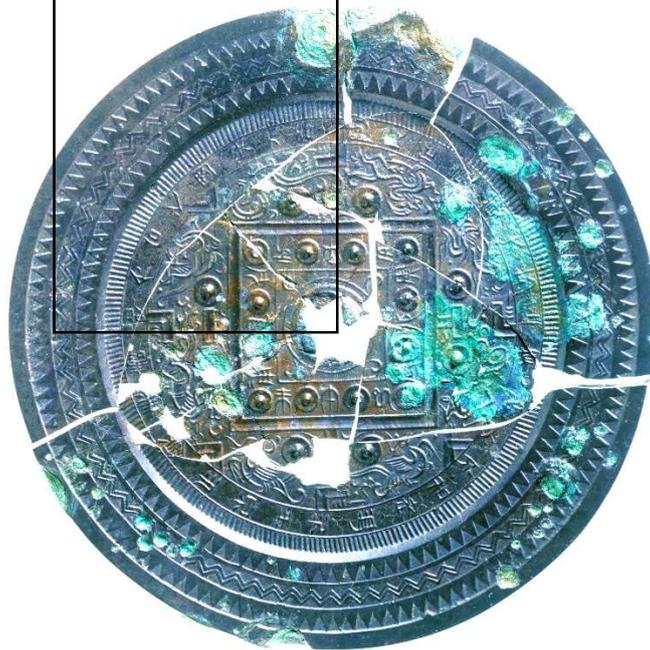
386 が同環である。平原鏡同士で同環である。

(422, 386)の形状比と底辺長





386 平原 3 号方格规矩 4 神鏡 (鏡径 210 mm)



422 平原 39 号方格规矩 4 神鏡 (鏡径 186 mm)

423 平原 40 号

423 平原 40 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 117 mm）の同環鏡と同数鏡を下表に示した。

423 は鏡径が小さい。

小径の中国出土鏡と同環である。

三角縁神獸鏡に同環鏡はない。

382 富雄丸山キ龍文鏡と同環である。同環である鋸齒環は両者とも斜線である。図像のタッチはよく似ている。

L 字は逆 L 字で中国風である。

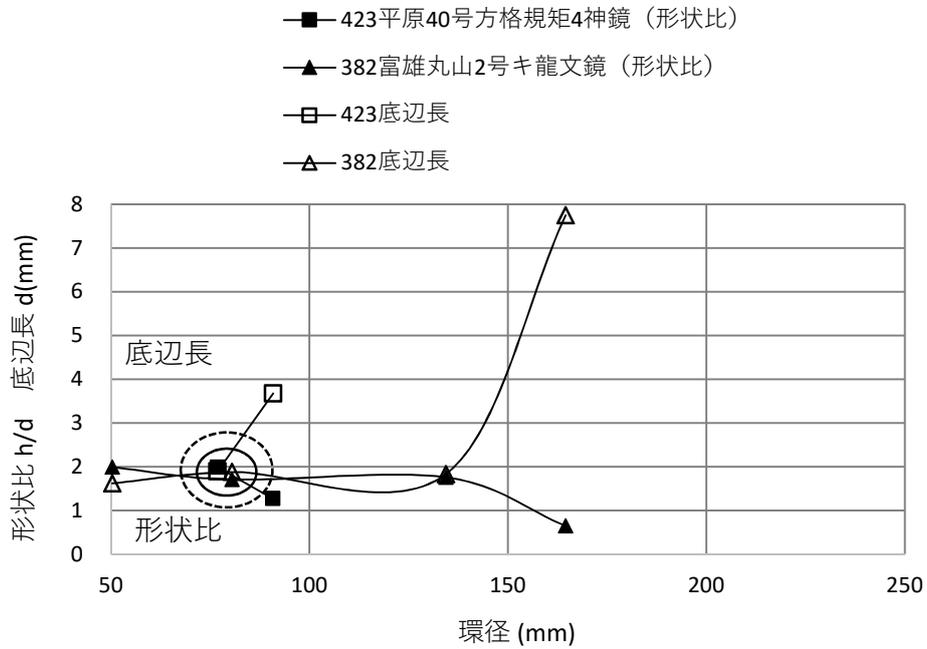
423 平原 40 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 117 mm）の同環鏡（環径 91, 77mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
252	黄武元年（222 年）対置式神獸鏡	121	77	中国
265	劉氏作銘帯神獸鏡	120	77	中国
382	富雄丸山 2 号キ龍文鏡	191	77	

423 平原 40 号方格規矩 4 神鏡（鏡径 117 mm）の同環鏡（環径 91, 77mm）				
通し番号	略称	鏡径 (mm)	同環の環径 (mm)	出土地
21	安満宮山 5 号陳是作平縁同向式神獸鏡	176	91	
119	湖北省吳造対置式神獸鏡	150	77	中国
138	山梨銚子塚画文帯神獸鏡	145	91	
182	市原諏訪神社盤龍鏡	120	91	
377	宮崎日向市富高 2 号墳 4 神 4 獸鏡	118	77	

(423, 382)

382 が同環である。同環である鋸歯環は両者とも斜線である。図像のタッチはよく似ている。

(423, 382)の形状比と底辺長





382 富雄丸山 2 号キ龍文鏡 (鏡径 191 mm)



423 平原 40 号方格規矩 4 神鏡 (鏡径 117 mm)

4.4 結果の検討

以下の表に、平原鏡の鋸歯文の検討結果をまとめて示した。
これらのことから以下のことが言えよう。

① すべての平原鏡には、三角縁神獣鏡の同環鏡がある。

これは大発見ではないであろうか。これは鏡を見ただけではわからない、地道な測定と検討の結果である。これは平原鏡の年代、出自を知る大きな手掛かりになる。

② 中国鏡と同環なものがある。

その同環である中国鏡は、
166 永平7年（64年）尚方作獸帯鏡、
238 中平7年（187年）銘鏡、
236 武寧王陵鏡（3）、
178 邴各庄出土鏡、
262 聖仏鎮鏡、
190 長江出土鏡（2）
[他に浙江出土鏡](#)
などである。

③ 平原鏡同士で、同環である組み合わせが多い。

④ L字が逆L字であり、中国鏡の伝統に則っている。

⑤ 図像のタッチが同じであり、同一作者を思わせる。

平原鏡の結果のすべてをまとめて下表に示した。

表 平原出土方格規矩鏡のまとめ

通し番号	鏡の名称	鏡径 (mm)	当検討での判定
384	平原 1 号方格規矩 4 神鏡	234	384 の同環鏡・同数鏡は日本鏡にも極めて少なかった。 わずか 128 大阪紫金山方格規矩鏡のみが同環であった。 中国鏡には同環鏡は全く認められなかった。 384 は L 字が鏡の中心に向かって右曲がり (逆 L 字) であるので、中国鏡の特徴を有している。
385	平原 2 号方格規矩 4 神鏡	209	385 には三角縁神獸鏡の同環鏡・同数鏡が多い。中国鏡の同環鏡はなかった。 L 字は中国風の右曲がり (逆 L 字) である。
386	平原 3 号方格規矩 4 神鏡	210	386 には三角縁神獸鏡の同環鏡と同数鏡が極めて多い。 L 字は右曲がり (逆 L 字) で中国風である。 386 は浙江出土銅鏡の 453 (29) 東漢 4 獸画像鏡と同環である。したがって 386 は中国鏡である。陳是・陳氏は平原鏡の 160 mm の鋸齒環で多くの三角縁神獸鏡を作った。
387	平原 4 号方格規矩 4 神鏡	207	387 には三角縁神獸鏡の同環鏡と同数鏡が多数ある。中国鏡の同環鏡は存在しない。 L 字は逆 L 字であり中国風である。 387 は浙江出土銅鏡 453 (29) 東漢 4 獸画像鏡と同環である。 したがって 387 は中国製である。
388	平原 5 号方格規矩 4 神鏡	184	388 も三角縁神獸鏡と同環である。一方中国鏡とも同環である。しかし、それらの中

			<p>国鏡は日本出土の陳是・陳氏銘鏡と同環であるため中国での陳是・陳氏作品とみなされるものである。</p> <p>最も古い陳是作品と鋸齒文から認定した24、335の青龍3年銘鏡とも同環である。。</p> <p>388は浙江出土銅鏡432(8)東漢博局禽獸鏡と同環である。388は中国製である。陳是は432を見てそれを自分の鏡に移植したのである。</p>
389	平原6号方格規矩4神鏡	185	<p>389は中国時代の陳是作品である132と同環である。またそれより30年後の210とも同環である。</p> <p>389のL字は逆L字であるので、中国風である。</p> <p>これらのことを併せると、389は中国製で、陳是はこれをもって日本に渡来したのではないか。</p> <p>他の平原鏡も凶像の調子は全く同じである。それらは、同一作者と考えられる。それらを持って陳是・陳氏は渡来し、それらの鋸齒文で三角縁神獸鏡を作った。</p> <p>そして、元の方格規矩鏡は、渡来の際最も世話になった伊都国に贈ったのであろう。</p>
390	平原7号方格規矩4神鏡	161	<p>390は三角縁神獸鏡2面と同環である。陳是作銘鏡とも同数である。L字は逆L字でありその点では中国風である。これらは、これまでの平原古墳出土の方格規矩鏡と同じ状況である。</p> <p>平原鏡3面と同環である。</p>
400	平原17号方格規矩4神鏡	165	<p>鋸齒文検定で中国鏡と判定した複数の画文帯環状乳神獸鏡と同数である。同じキ龍文鏡である富雄丸山2号鏡と環径の一致はよくないが同数である。三角縁神獸鏡との同環鏡も同数鏡もないので、中国製と考えら</p>

			れる。しかも、同じ平原古墳出土の方格規矩鏡の図像とタッチが全く同じである。方格規矩鏡が中国製であることを強く示唆している。
401	平原 18 号方格規矩 4 神鏡	161	401 は三角縁神獸鏡と同環であり、中国出土の陳是作品と推定される鏡と陳是が参考とした中国鏡とも同環である。L 字は中国風の逆 L 字である。401 は中国製で、陳是が日本に持ちこんだものと考えられる。
402	平原 19 号方格規矩 4 神鏡	159	402 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。402 は 238 中平 4 年（187 年）神人神獸画像鏡と同環であり、中国鏡である。L 字は中国風の逆 L 字である。
403	平原 20 号方格規矩 4 神鏡	185	403 は 162 mm の環径で多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。 陳是・陳氏は 403 の鋸齒文を多くの三角縁神獸鏡に移植した。 陳是・陳氏に倣った張是・張氏鏡とも同数となった。 L 字は中国風の逆 L 字である。
404	平原 21 号方格規矩 4 神鏡	207	404 は 160 mm の環径で多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。陳是・陳氏銘鏡とも複数同環である。 陳是・陳氏はこの鋸齒文を多くの三角縁神獸鏡に移植した。 L 字は中国風の逆 L 字である。
406	平原 23 号方格規矩 4 神鏡	191	406 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。平原鏡とも同環・同数である。 L 字は 1 ッカ所しか見えないが、逆 L 字であり、中国風である。
409	平原 26 号方格規矩 4 神鏡	183	409 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数で

			<p>ある。</p> <p>中国鏡の 166 の永平 7 年（64 年）尚方作獸帶鏡とも同環である。やっと同環の中国鏡が現れた。409 は鋸齒環が 2 環とも同環であり、間に二重の鋸齒環が挟まっている点も同じである。409 は 166 を手本とした中国鏡ではないか。</p> <p>L 字は 1 ッカ所しか見えないが、逆 L 字であり中国風である。</p> <p>409 は浙江出土銅鏡の 453 東漢 4 獸画像鏡と同環である。したがって 409 は中国鏡である。</p>
410	平原 27 号方格規矩 4 神鏡	158	<p>410 は三角縁神獸鏡と同環である。</p> <p>同時に、中国鏡の永平 7 年銘鏡と泰始 9 年銘鏡と同環である。410 が中国製であることをうかがわせる。</p> <p>また、多くの平原鏡とも同環である。平原鏡が同一作者によって作られたことを示唆している。</p> <p>L 字は逆 L 字で中国風である。</p>
411	平原 28 号方格規矩 4 神鏡	182	<p>411 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。</p> <p>411 の L 字は逆 L 字であり中国風である。</p> <p>浙江出土銅鏡の 432 と 453 と同環である。</p> <p>したがって 411 は中国製である。</p>
412	平原 29 号方格規矩 4 神鏡	165	<p>412 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。</p> <p>また、中国出土の 178 邴各庄出土鏡とも同環である。これは、178 の作者が中国で 412 の鋸齒文を写して 178 を作ったことを示している。178 の作者は陳是であることをすでに示した。すなわち、412 は中国に存在していたのである。それを陳是が日本に持参し、その鋸齒文で多くの三角縁神獸鏡を作</p>

			<p>ったのである。</p> <p>L字は逆L字であり中国風である。</p>
413	平原 30 号方格規矩 4 神鏡	189	<p>413 は、数は少ないが三角縁神獸鏡と同環である。</p> <p>L字は逆L字で中国風である。</p>
414	平原 31 号方格規矩 4 神鏡	186	<p>414 は三角縁寸獸鏡とも同環・同数であるが、中国と 166 永平 7 年（64 年）鏡と 238 中平 4 年（187 年）鏡と同環である。これは 424 の作者が 166 と 238 の鋸齒文を知っていることになり、414 が中国製であることを示唆している。</p> <p>414 の L 字は逆 L 字であり、中国風である。</p>
415	平原 32 号方格規矩 4 神鏡	188	<p>415 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。</p> <p>L字は逆L字であり中国風である。</p>
417	平原 34 号方格規矩 4 神鏡	166	<p>417 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。</p> <p>236 武寧王陵鏡（3）は 144 mm の環径で多くの三角縁神獸鏡と同環であるので、ここでも 417 と同環となった。</p> <p>238 中平 4 年銘鏡とも同数であり、417 が中国製であることを示唆している。</p> <p>陳是・陳氏は 414 の鋸齒環を三角縁神獸鏡に移植した。</p> <p>417 の L 字は逆 L 字であり、中国風である。</p>
419	平原 36 号方格規矩 4 神鏡	162	<p>419 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。</p> <p>236 の武寧王陵鏡とも 238 の中平 7 年（187 年）鏡とも同環である。</p> <p>多くの平原鏡と同環である。</p> <p>L字は欠落していて不明である。</p> <p>419 は浙江出土銅鏡 432 東漢博局禽獸鏡とも同環である。</p> <p>したがって 419 は中国鏡である。</p>

420	平原 37 号方格規矩 4 神鏡	164	420 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。 262 の聖仏鎮鏡とも同環である。262 は陳氏作銘の三角縁神獸鏡と同環であるため、中国での陳氏作品と考えられる鏡である。陳氏は 420 の鋸歯文を写して中国で 262 を作り、さらに日本で三角縁神獸鏡を作ったのである。 L 字はよく見えない。
421	平原 38 号方格規矩 4 神鏡	188	421 は三角縁神獸鏡と同環・同数である。陳氏作銘鏡とも同環であり、陳氏が 421 を自作の三角縁神獸鏡に写したのである。張氏はさらにそれを写したのである。 L は逆 L 字であり、中国風である。 421 は浙江出土鏡の 432 東漢博局禽獸鏡と同環である。したがって 421 は中国鏡である。
422	平原 39 号方格規矩 4 神鏡	186	422 は多くの三角縁神獸鏡と同環・同数である。 166 永平 7 年鏡と 190 長江出土鏡 (2) の中国出土鏡とも同環であり、422 が中国製であることを示唆している。 386 の平原鏡とも同環である。 L 字は逆 L 字であり中国風である 422 は浙江出土銅鏡 432 東漢博局禽獸鏡と同環である。したがって 422 は中国鏡である。
423	平原 40 号方格規矩 4 神鏡	117	423 は鏡径が小さい。 小径の中国出土鏡と同環である。 三角縁神獸鏡に同環鏡はない。 382 富雄丸山キ龍文鏡と同環である。同環である鋸歯環は両者とも斜線である。図像のタッチはよく似ている。 L 字は逆 L 字で中国風である。

これらの結果を踏まえると、これらの平原鏡の出自に関して、どのような仮説が立てられるのであろうか。

仮説 1

平原鏡はすべて三角縁神獸鏡と同環であるのであるから、すべて陳是・陳氏が作ったものである。

この仮説の最大の問題点は、平原鏡のL字が逆L字であり、陳是作の方格規矩鏡が正L字で作られている点である。陳是が、平原鏡だけ、自分の流儀に反して逆L字で作ったとは考えにくい。

仮説 2

平原鏡は中国製である。それが三角縁神獸鏡と同環であるのは、陳是・陳氏がそれらの鋸齒文を、伝統を引き継ぐために、自分達の三角縁神獸鏡に移植したためである。

平原鏡には尚方作と陶氏作の銘が入っているので、中国製であっておかしくない。

L字が中国風の逆L字であることも符合する。

陳是・陳氏が鋸齒文を自分たちの三角縁神獸鏡に移植するためには、陳是・陳氏が自分たちの渡来の際に平原鏡を持参したことになるが、さらに三角縁神獸鏡を製作したあと、用済みになった平原鏡を平原に贈ったことになる。なぜ、このような大量の方格規矩鏡を平原のみに贈ったのかは不明であるが、渡来の際、世話になった伊都国に感謝の気持ちで贈ったのではないか。三角縁神獸鏡を贈ることも考えられるが、伊都国はヤマト朝廷に敵対する九州内部の邪馬台国にも通じざるをえないので、三角縁神獸鏡を贈るのはヤマト側も控えて、真正な中国鏡である方格規矩鏡を贈ったのであろう。贈られた伊都国側も、邪馬台国に遠慮し伝世せず、すぐ墓に埋葬したと思われる。平原1号墓は墓であり、古墳ではないようである。さらにいえば、三角縁神獸鏡が配布された当時は、古墳はまだ建造されていなかったことになる。

著者は、仮説②をとることとする。

5. 平原出土の内行花文鏡の出自の検討

内行花文鏡には一般的に鋸歯文がない。そのため、それらの同定のためには別の方法を開発しなければならない。しかし、内行花文鏡を見ても、手掛かりになりそうな因子は見つからない。そのような状況のなかで、多数ある環の環径が因子として挙げられる。

内行花文鏡の多くの環の径はどのように分布しているのか、特に平原鏡の内行花文鏡の分布はどうか、同時に出土した方格規矩鏡とどのような関係なのか、すでに述べた方格規矩鏡が中国製であることが推測されたが、内行花文鏡はどうか、などの疑問が湧く。

これらの疑問をもとに、平原古墳出土の内行花文鏡について、それらの多数ある環の径の分布を調査した。

平原出土の内行花文鏡の環径分布

平原鏡のうち、内行花文鏡は

- 393 平原 10 号内行花文 8 葉鏡 鏡径 461 mm
- 395 平原 12 号内行花文 8 葉鏡 鏡径 465 mm
- 397 平原 14 号内行花文 8 葉鏡 鏡径 465 mm
- 398 平原 15 号内行花文鏡 鏡径 271 mm
- 399 平原 16 号内行花文鏡 鏡径 187 mm である。

その内、環径が計れたのは、

- 393 平原 10 号 鏡径 461 mm
- 395, 平原 12 号 鏡径 465 mm
- 398, 平原 15 号 鏡径 271 mm
- 399 平原 16 号 鏡径 187 mm

の 4 面であった。

参考資料として、一般的に収集した鏡のなかの

- 108 貝吹山 1 号墳仿製内行花文鏡 鏡径 172 mm
- 143 足利市十二塚内行花文鏡 鏡径 141 mm
- 110 岡山車塚内行花文鏡 鏡径 191 mm

を比較試料として採用した。これを一般の内行花文鏡と呼ぶこととする。

これらの一般の内行花文鏡には鋸歯文がある。その鋸歯文の判定結果を下表に示した。いずれも中国鏡であるという判定である。

表 一般の内行花文鏡の判定

通し番号	鏡の名称	出土古墳	鏡径 (mm)	当検討での判定
108	貝吹山 1 号墳仿製内行花文鏡	貝吹山	172	108 に同環鏡は存在しなかった。 当然、108 に三角縁神獸鏡の同環鏡はなかった。 108 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国の特徴を有しているので、中国鏡である。
143	栃木十二天塚変形内行花文鏡	栃木十二天塚	141	54 太平元年 (256 年) 同向式神獸鏡と同環である。 143 は中国製である。
110	岡山車塚内行花文鏡	岡山車塚	191	110 に三角縁神獸鏡の同環鏡はない。 110 は 114 洛陽市画文帯同向式神獸鏡と 169 尚方名工杜氏盤龍鏡と同環であるので中国鏡である。 110 は形状比と底辺長が 2 付近に集まる一部の中国鏡の特徴をも有している。その点でも 110 は中国鏡である。

平原出土の内行花文鏡と一般の内行花文鏡の環径分布の比較

平原古墳出土の内行花文鏡である 393、395、398、399 の 4 面と比較試料の一般の内行花文鏡の環径分布を下表と下図に示した。

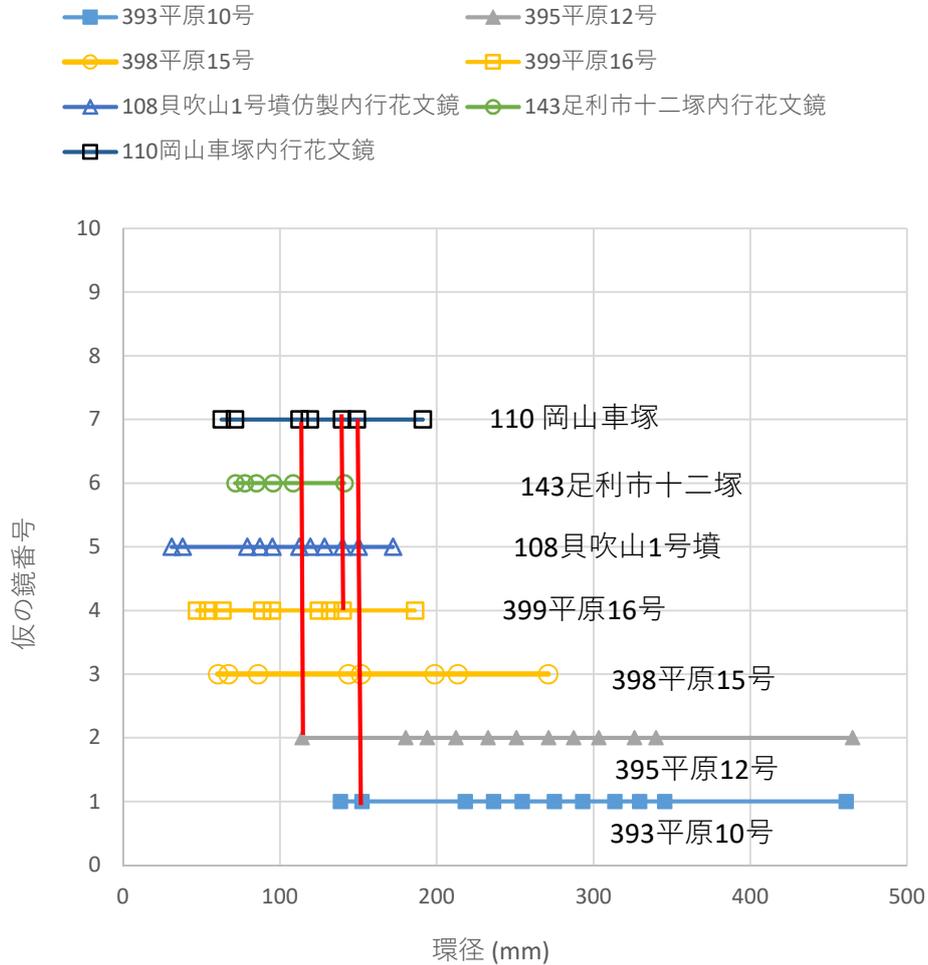
図中の赤線で示したように、平原出土の方格規矩鏡と一般の方格規矩鏡で環径が同じである場合もある。例えば、393 平原 10 号は最小から 2 番目の環径で、393 平原 1 号鏡、398 平原 15 号鏡、108 貝吹山 1 号墳鏡、110 岡山車塚などと環径が一致する。他の平原鏡もそうである。

国内出土の一般の内行花文鏡はそれらの鋸歯文から中国製と判定されるので、これらのことから平原出土の内行花文鏡も中国製であるかすかな可能性が生じる。

表 環径の分布を図示した鏡のうちわけ

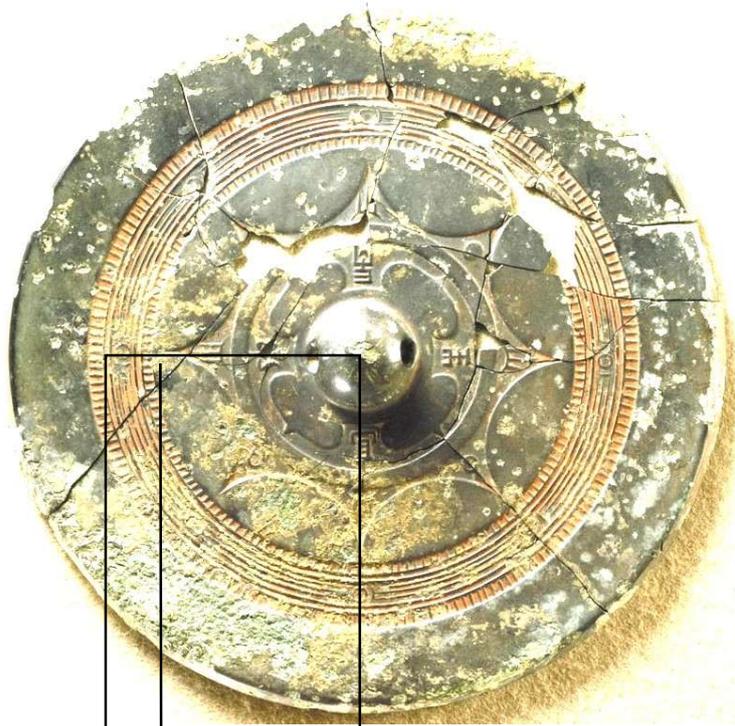
仮の鏡番号 (図の縦軸 の番号)	名称	鏡径 (mm)
1	393 平原 10 号	461
2	395 平原 12 号	465
3	398 平原 15 号	271
4	399 平原 16 号	186
5	108 貝吹山 1 号墳仿製内行 花文鏡	172
6	143(109)足利市十二塚内行 花文鏡	141
7	110 岡山車塚内行花文鏡	191

内行花文鏡の環径の分布

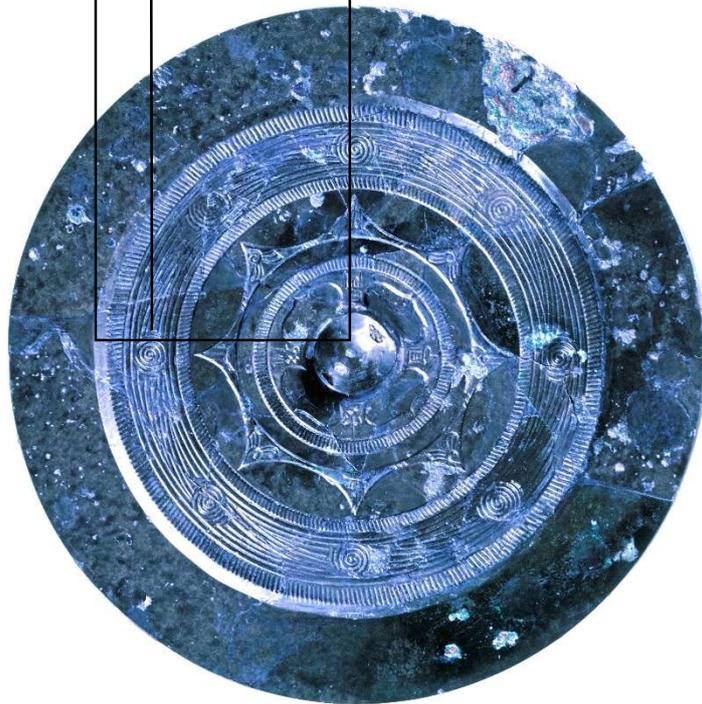


内行花文鏡の図像の検討

しかし、上記の環径の一致だけでは、因子が一つであまりにも単純であり、信頼できない。さらに証拠を探すには、図像に頼らざるをえない。その図像の探索の結果、399 平原 16 号内行花文鏡（鏡径 187 mm）と 110 岡山車塚内行花文鏡（鏡径 191 mm）が類似の図像をもっていることを発見した。以下にその図像（写真）を示したが、大きさは異なるものの内区の図像は酷似している。中心の紐付近の構成をさらに示したが、全く同様である。すなわち、同一作者と考えられる。



110 岡山車塚内行花文鏡（鏡径 191 mm[Y1]）

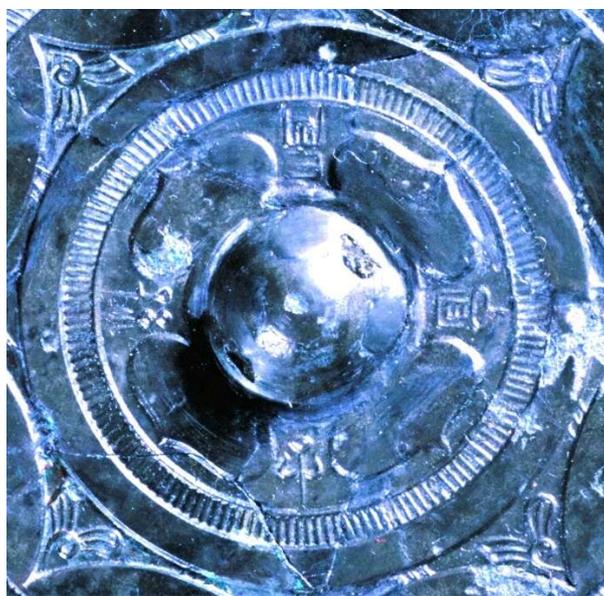


399 平原 16 号内行花文鏡（鏡径 187 mm）
（鋸齒環の環径はあわない）

紐付近を実寸で以下に示した。



110 岡山車塚内行花文鏡拡大図（鏡径 191 mm）円環径 71 mm（実寸）



399 平原 16 号内行花文鏡拡大図（鏡径 187 mm）円環径 64 mm（実寸）

110 はすでに示したように、鋸歯文がある。その探索から、中国製と判定している。

それを再確認するために、同環鏡の一例を以下に示した。110 は中国出土の 274 鄂州銅鏡 201 永安 4 年 (261 年) 鏡と同環である。ここでは示すことができないが、110 は多くの中国出土鏡と同環であり、確実に中国製である。したがって、この 110 と図像が酷似している 399 は中国製であると言えるのではないか。

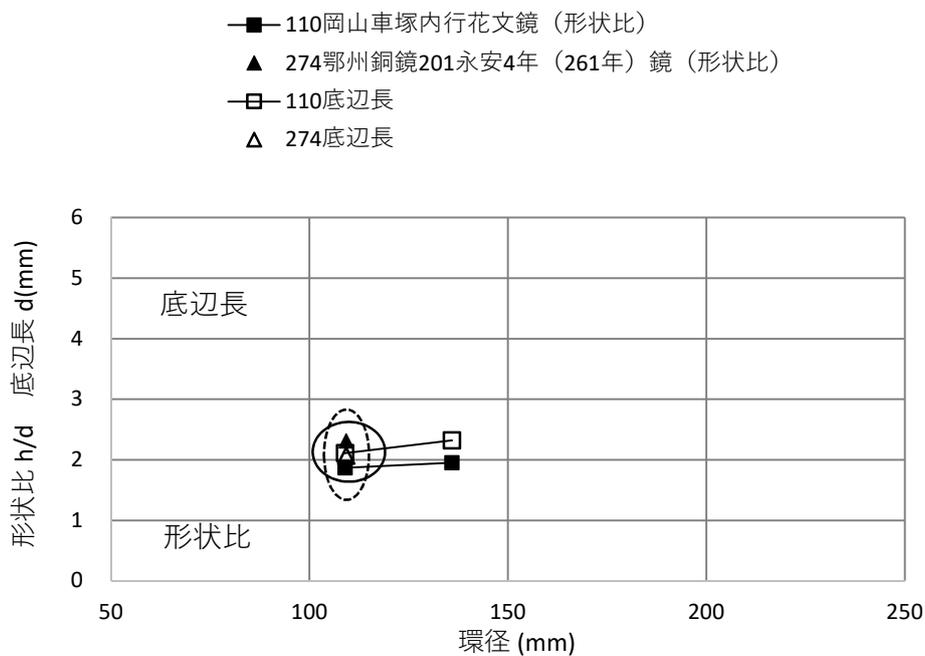
399 が中国製であるとなれば、図像のタッチが酷似している他の平原出土の内行花文鏡も中国製ということになる。

110 が中国鏡と同環であることを示すデータの 1 例を以下に示した。

(110, 274)

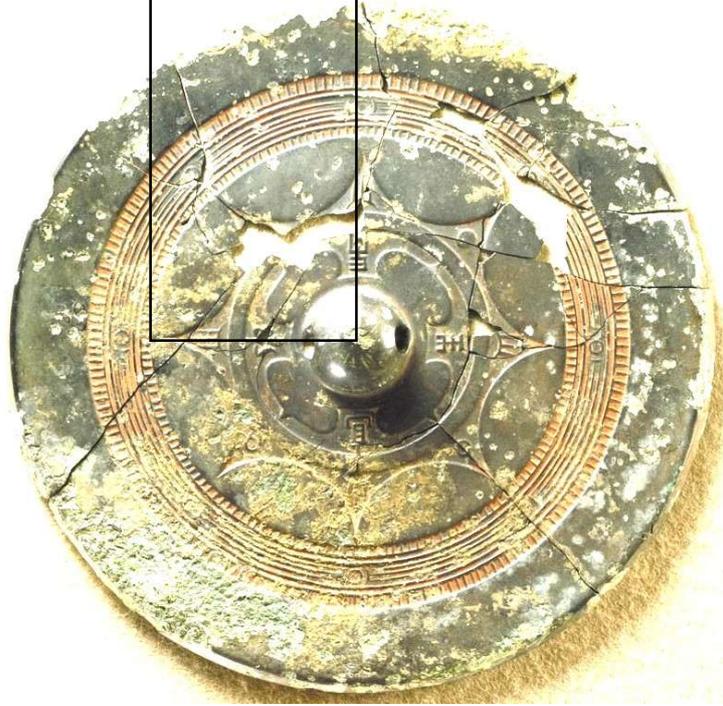
274 が同環である。

(110, 274)の形状比と底辺長





274 鄂州銅鏡 201 永安 4 年 (261 年) 鏡 (鏡径 142 mm)



110 岡山車塚内行花文鏡 (鏡径 191 mm)

以下に平原出土の内行花文鏡の外観を示したが、いずれも図像は酷似している。タッチも同じである。

したがって、これらは同一作者である。そのような状況で、そのなかの 399 が中国製であるとなれば残りの内行花文鏡も中国製ということになる。



393 平原 10 号 (鏡径 461 mm)



395 平原 12 号 (鏡径 465 mm)



396 平原 13 号



398 平原 15 号 (鏡径 271 mm)



399 平原 16 号 (鏡径 187 mm)

平原出土の内行花文鏡のまとめ

内行花文鏡にも他の銅鏡と同様に多くの円環があるが、平原出土の内行花文鏡についてもその円環の環径が国内出土の一般の内行花文鏡のそれと一致し、その一般の内行花文鏡がその鋸歯文から中国製と判定され、したがってそれと環径が一致する平原出土の内行花文鏡は中国製と判定できそうであったが、それだけでは根拠が薄弱であると判断された。そこでやむなく図像が一致するものを探索したが、399 平原 16 号鏡 (鏡径 187 mm) の図像が 110 岡山車塚内行花文鏡 (鏡径 191 mm) に酷似していることを発見した。110 はその鋸歯文から中国製と判定されている。この結果 399 は中国製と判定された。さらに図像およびそのタッチは平原鏡全体で同じであるので、平原出土の内行花文鏡全体が方格規矩鏡と同様に中国製であると判定された。

6. 最終的なまとめ

以上のことから次のように結論される。

平原古墳出土の方格規矩4神鏡および内行花文鏡は、中国製であり、陳是・陳氏が渡来時に持参し、それらの鋸歯文を自分たちの三角縁神獸鏡に移植し、多くの三角縁神獸鏡を製作した。したがって、平原遺跡出土の方格規矩鏡は三角縁神獸鏡の「親(オヤ)鏡」ということになる。また、方格規矩鏡の製作者は、銘にあるように、尚方の工人と、同じく尚方の陶氏であると考えられる。さらにいえば、陶氏は陳是・陳氏の師匠だったのではないか。「銅出徐州師出洛陽」はこのことをいっているのではないか。内行花文鏡も陶氏の作ではないか。陳是・陳氏は方格規矩鏡の鋸歯文を自分たちの三角縁神獸鏡に移植し、用済みになった方格規矩鏡は陳是たちがもっとも世話になった部門に贈ったのではないか。それが日本上陸の地であった伊都国であったのであろう。

三角縁神獸鏡を贈ってもいいが、伊都国はヤマト朝廷の敵対国であった邪馬台国とも通じざるをえない立場であったので、ヤマト朝廷の三角縁神獸鏡ではなく、真正の中国鏡の方格規矩鏡と内行花文鏡を贈ったのであろう。その時期は、陳是・陳氏がヤマトで三角縁神獸鏡を作り始めた景初3年(239年)より少し下がった240年代の後半ぐらいではないか。それを受領した伊都国は、邪馬台国への遠慮から、すぐに埋葬したと思われる。その時期は250年ごろからの3世紀後半と考えられる。

森 浩一編「考古学その見方と解釈(上)」(筑摩書房 1991年)によれば、『平原遺跡は福岡県糸島郡前原町有田字平原にある弥生時代から古墳時代の遺跡。1965年方形墓状の遺構の中央の墓拡から方格規矩4神鏡35面、四蛇鏡1面、辰宣子孫内行花文鏡1面のほか、径46.5cmに及ぶ仿製の内行花文鏡が出土した。仿製の内行花文鏡は同範である。他の玉類の材質から古墳時代と考える説もある(p134)。』また『福岡県前原町の著名な平原遺跡は4世紀に比定されているが、この遺跡では31面の漢の方格規矩鏡とともに、直径45センチを越す4面の大型鏡を含む6面の仿製内行花文鏡があり確実に両者が混在した稀な例でもある(p134)。』ともある。

この森説では、平原遺跡の方格規矩鏡が後漢時代のものであることを認めているが、根拠は示されていない。また、それらの方格規矩鏡が、陳是・陳氏の手本になった三角縁神獸鏡の『親鏡』であることも知らない。さらに、内行花文鏡が、仿製であると誤った判定をしている。

本報で明らかになったように、陳是・陳氏が、鋸歯文を自分たちの三角縁神獸鏡に移植後平原地方に寄贈したとすれば、その時期は3世紀半ばであり、それを収めた周溝墓の建設はそれ以降ということになる。

「卑弥呼の鏡が解き明かす邪馬台国とヤマト王権」 藤田憲司 えにし書房(2016年)という本がある。

『平原1号墓は内法一辺13×10mの方形周溝墓である。墓拡の四隅に打ち砕かれた状態で大量の鏡が出土している。直径46.5mmの大形仿製内行花文鏡のほかに平原1号墓の方格規矩鏡は、ほぼすべてが仿製品という見解もある(p84)。』

平原1号墓の方格規矩鏡が仿製すなわち日本製だという見解があると述べているが、理由は述べられていない。鋸歯文を調べていない研究では、そう考える人もいるかと思うが、鋸歯文を調べていない研究はまったくの定量的なデータの欠落している研究であり、個人の想像の産物でしかない。本論で述べたように平原鏡は中国製である。

また『鏡の大量副葬の習慣が不要となる、ひいては三角縁神獸鏡が不要となる要因が何であったのか。次章で別の側面から検討することとしよう。そのために、三角縁神獸鏡の副葬開始期、言い換えれば多量副葬の始まりと三角縁神獸鏡の使用形態に対する検討をしたい。それは、三角縁神獸鏡だけでなく畿内における鏡の使用法とその開始の由来に深く関わりと考えるからである（p104～105）。』と述べられている。三角縁神獸鏡が不要になる原因はこの文章以降に述べられているのであろうが、分かりにくい。我々の考え方は簡単である。ヤマト朝廷は、邪馬台国追討のため、三角縁神獸鏡を味方作りのために諸国に分配した。なぜ銅鏡か、銅鏡は当時の日本人があこがれた外来文化であったのであろう。そのため、陳是・陳氏などの中国人工人を大和に招聘した。その時期は、卑弥呼が魏に使節を送った時期と同一である。なぜ同時期かといえば、敵対するヤマト朝廷が中国人工人を招聘して、銅鏡を作り始める態勢を整えたのを卑弥呼が知ったからであろう。卑弥呼は中国に援助を求めたのである。その後、ヤマト朝廷は、三角縁神獸鏡を諸国に配りながら、邪馬台国への圧迫を強めていった。魏志倭人伝でいっている狗奴国による圧迫などもその一部であろう。邪馬台国は、神武東征後、朝廷のもともとの出身地での反乱国であるので、内部ではヤマト朝廷への強硬派と恭順派などがいて、大いに内輪もめしたのであろう。その後、壺与の時代まで、邪馬台国は存続したが、泰始9年（273年）銘鏡を作った張是・張氏らが渡来した時期から少し置いた時期に遂に滅亡した。そのときは、まだ張氏、張是は健在であり、大量に三角縁神獸鏡が余ってしまった。それらは、畿内の臣下に押し付けられた。もらった方もいささか有難迷惑に思った。そこで、早めに古墳に大量副葬した。そのとき、真正の中国鏡は枕元に、多量の三角縁神獸鏡はいささか粗略に棺外に置かれたのである。これが大量出土の椿井大塚山古墳や黒塚古墳の実状であろう。ときの天皇は崇神天皇であり、日本再統一の天皇をたたえて、神武天皇と同じ「ハツクニシラススメラミコト」と呼ばれたのである。

「ハツクニシラススメラミコト」の問題をここで述べる。

「神話から歴史へ」（日本の歴史1 中公文庫 1973年初版、2017年、井上光貞）では、『記紀によると、ハツクニシラススメラミコト、つまり初めて国を統治した天皇が二人いることになっている。一人は、いうまでもなく第一代の神武天皇（日本書紀にある：筆者註）だが、もう一人は、実在しない八帝のつぎにくる第十代の崇神天皇（同じくハツクニシラススメラミコト）である（p298）。』と述べられている。この本の著者の井上氏は『わたくしは、神武伝承はあくまで日本神話の一部であって史実の外にあるものと思う（p292）。』ともいっている。

（中央公論社の日本の歴史シリーズは、著者がまだカケダシの金属の研究者だったころの本である。毎月発行されていたように記憶するが、退職後は邪魔に思って捨てた。しかし、この古代編は今回必要になったので、ちょうど文庫サイズで復刻されたものを入手した。）

またそれに続く8代の天皇については、『この八代については、記紀を開けばだれでもわかることは、どの天皇にも事績が記されていないことである。そこで昔ふうの学者は、これは天皇家が統一の日本の首長になる以前の皇室の實在の祖先であり、事績の伝わらない「闕史時代」であるといいならわしてきた（p295）。』と述べている。

以上のことから、要するに、井上氏は、ハツクニシラスミコトは、あったとしてもせいぜい崇神天皇だけであり、それ以前の8代の天皇とその前の神武天皇は存在しなかったというのである。しかし、崇神天皇の前に神武天皇を含め9代の天皇を捏造する必要がどうしてあったのだろうか。そしてそれがなぜ9

代なのであろうかという疑問が湧く。「ハツクニシラスメラミコト」がふたりいるという謎を解くのは、一方を抹消するだけでない、もう一つの方法があるのである。それは最初の「ハツクニシラス」を「統一」、2番目の「ハツクニシラス」を「再統一」と読むことである。統一と再統一の間には当然、「反乱」があったのである。それが邪馬台国である。神武天皇による統一の後、九州で反乱がおこり新しい造反国家が生まれた。ちょうど、明治維新後、新しい中央政府に対して、薩摩が反乱を起こしたようなものである。ヤマト政権にとって、邪馬台国の反乱は頭痛のタネであったが、その鎮圧作戦として、知恵者がいて、三角縁神獸鏡の贈与作戦を行ったのである。それを行った天皇は時期的には厥史八代の天皇である。事績がないどころではない、大変有能な天皇（たち）である。記紀がこれらのことを全く記していないのは、700年代に出来た記紀が500年近く前のことを正確に記せるわけがないからである。ただ、物証として、三角縁神獸鏡が残っただけである。驚くべきことであるが、その三角縁神獸鏡の調査が不十分であった。鋸齒文が全く調査されていなかった。本報文の著者らはその大きな欠陥を補ったのである。

それでは、厥史が8代であるというのは事実であろうか。

井上光貞氏は崇神天皇について、次のように述べている。『崇神天皇はいつごろの人であったのであろうか。その一つの方法として、在位年代のほぼ確実にわかる応神天皇から世代を逆算してみることにしよう。応神の在位年代は（中略）私は370-390年頃と見ている。また、記紀の系譜をそのまま信用すると応神天皇から5代前が崇神天皇である。してみると、一世代を20年として崇神は270-290年ごろの人ということになるであろう（p309）。』これは、筆者も同意する。

しかし、井上氏は、この推論を、なぜかここでやめているのである。神武天皇は架空の人物であるという先入観があったためであろう。

これに反して、そのまま厥史8代から神武天皇まで素直に延ばせばいいではないかと筆者は思うのである。これを素直に延ばせば、神武天皇の在位は130-110年となる。神武東征は2世紀の初めで、初めて畿内にヤマト政権が誕生したのである。

厥史8代が真実であることを、西尾氏は逆説的に次のように述べている【『国民の歴史』（産経新聞社、平成11年（1999年）西尾幹二）】。『「天皇記」が作られた推古天皇の時代に、中国伝来の讖緯（しんい）説によって初代天皇の即位を1260年前に置かなくてはならなくなったという説は、神武天皇以下の八代の架空性の証拠には全くならない。むしろ逆の説を裏付ける。実際には五、六百年程度前の初代天皇即位の年をむりに引き延ばして決めた結果、一代あたりの在位年数が不自然に延びてしまっている。このことは八代の実在をかえって証明しているともいえる。石井氏の言うような作り事なら、架空の天皇の数を増やせば不自然な年齢にしなくてもよかつたであろう。それをしなかったのは記紀の編者が八代の天皇の記録に手を加えることをはばかったにほかなるまい（p164）。』本報の著者はこれに賛同する。西尾氏は5,600年前を神武即位の年と考えているようである。推古天皇より5,600年前ということであるとすれば、推古天皇の在位が592年から、628年であるらしいから、500年前とすれば、92-128年、600年前とすれば、紀元前8-紀元後28年となる。紀元後1-2世紀ごろが神武東征となる。

この東征の乱のことをいっているらしいことが、後漢書に載っているらしい。

井上氏は同書で『後漢書』には何によつたものか、この大乱を桓（桓帝。在位146-167）、靈（靈

帝、在位 168–188) の間のこととし、梁書でも「漢の靈帝の光和 176–183 年中」と記している。これらによって、大乱の起こった年が、だいたい 170–180 年ごろであったとみることができる (p220)。」とも述べている。この後漢書のいう大乱は、神武東征のことではないかと、本報の著者は考える。時間のずれは多少あるが、2 世紀のいつかに神武天皇の東征があり、ヤマト朝廷が成立したと思われる。井上氏は同書で「橋本増吉氏は『2 世紀後葉の倭国の大乱のさいに倭人の一部が大和に遷ったのだ』と知っている (p286)。」と知っている。本報の筆者は神武東征そのものが倭国の大乱だと考えるが、類似の考えをもたれた先人がおられたことにホッとす。

井上氏は「中山 (平次郎) 氏は『神武天皇が日向から北上したとき、奴国王はその金印を志賀島に埋め、神武東征の軍に合流して大和に移った』と考えたのであった (p284)。」とも知っている。本報の筆者もこの中山氏の説を知らずにそう思ったもので、今もそう思っているのである。

金印のみならず、銅鐸も、神武東遷の際に、地元民によって隠されたこと、本報の筆者は考えるが、井上氏は、「倭国の大乱 (2 世紀後葉) のさいに倭人が東遷したというのも、銅鐸が消滅した時期から見て早すぎるようである (p286)。」と知っている。筆者は、金印と同時期に銅鐸も隠匿され、消滅したと考えるが、銅鐸の消滅時期が、井上氏のいうように、東遷の時期とちがうと確定的に言えるものか疑問に思うものである。筆者は神武東征のときだと考える。神武東征の報に、諸国は恐慌をきたしたのである。銅鐸については、井上氏は次によようにも知っている。「(銅鐸は) 弥生時代後期の生活記録として興味ある資料だが、より重要なことはそれが共同体の祭器、あるいは族長のシンボルだったことであり、前頁図のように畿内を中心に広く中部日本に分布していたことである。しかも問題なのは、その出土の状態である。そこで和辻氏はいう。『もし皇室が大和に興ったとすると弥生時代の畿内の祭器であった銅鐸はなにかの形で大和朝廷の祭祀や文化のなかに残ってもよさそうなものである。ところが銅鐸は山麓などで、まるで打ち捨てられたように出土する (後略)』 (p 284~285)」井上氏は和辻氏が「銅鐸がまるで打ち捨てられたように出土する」と知っているといっているのである。銅鐸が「まるで打ち捨てられたように出土する」と和辻氏 (1889-1960) はすでに気がついていたので、本報の筆者は驚いたのである。しかし、「打ち捨てられた」ではない、丁寧に隠されたのである。神武東征の報に、恐慌をきたした諸国は、共同体の祭器である銅鐸を、隠蔽したのである。そして再びとりだすことはなかった。隠し場所を知っている人は死に絶えた。誰にも隠し場所は分からなくなった。

神武天皇に続く厩史 8 代の在位期は不自然に長いらしいが、それによって、8 代は存在しなかったと断定するのは早計である。本当は 20 年程度在位したと「仮定」して考えてみよう。結果があえば、この仮定は正しいことになる。

崇神天皇の在位が 270–290 年であれば 9 代前の神武天皇の在位は 130–110 年となる。即ち、2 世紀の初めに、神武天皇が即位しヤマト朝廷が始まった。神武天皇は「ハツクニシラススメラミコト」となった。その後、いつ頃かはわからないが、ヤマト朝廷に不満な分子が、九州で反乱を起こした。よくあることではないか。明治時代にも西南戦争があった。

そのときヤマト朝廷に知恵者がいて、三角縁神獸鏡を全国に配布して、邪馬台国などの複数の反乱国を包囲し圧迫する作戦を始めた。この時期ははっきりしている。景初 3 年銘の銅鏡の時期、すなわち 239 年くらいからである。2 世紀初めに始まったヤマト朝廷が 3 世紀半ばごろ、邪馬台国など反乱国の討伐に本腰を入れ始めたことがわかる。鋸齒文の研究から、三角縁神獸鏡は、すべて渡来工人の陳是・陳氏が和で製作したものであることは、今でに再三示したところである。

三角縁神獸鏡の製作とその配布は、泰始9年（273年）銘鏡の作者の張氏・張是らが渡来した273年ごろ以降も続くが、そのころ邪馬台国は討伐される。このときは、文化的なヤマト朝廷も武力を使用したであろう。そして、三角縁神獸鏡は、製作の目的を失い、畿内の臣下に大量に配布されるようになる。これらの中には、張氏・張是作品が多くまじることになることから肯ける。

このように3世紀後半に邪馬台国が滅亡し、日本が再統一されたとすれば、その時期は先に推定した崇神天皇の推定在位期間の270-290年に全く重なるのである。再統一の天皇として、崇神天皇は改めて「ハツクニシラススメラミコト」と呼ばれたのである。これが、二人の「ハツクニシラススメラミコト」がいる真相である。

井上氏は、崇神天皇の治世中に疫病が流行ったと古事記にあると述べている（p298）。これは、邪馬台国討伐の暗喩ではないか。邪馬台国討伐による人民の損失があったと思われる。同時期に、埼玉県方面にあった別の謀反国も討伐され、ヤマト朝廷は再生したのである。

しかしこれらの事実は、記録されなかった。謀反があった事実を不名誉と考えたのであろう。あるいは後世の人間の推理力を試したかったのかもしれない。本報の著者は、三角縁神獸鏡の鋸歯文を調査しながら、古代人から分析力や推理力を試されているのではないかと実感したものである。

このように、「二人のハツクニシラススメラミコト」、「神武東征」、「厥史8代」の謎は解決されるのである。厥史8代の後半こそが、事績のない時代どころか、三角縁神獸鏡の配布という国家的事業が行われていた時代である。この事実を証明するのが、三角縁神獸鏡の鋸歯文である。

「卑弥呼の鏡が解き明かす邪馬台国とヤマト王権」の著者はさらに述べている。『邪馬台国を大和に求めようとしても、この時期の畿内地域はおよそ邪馬台国候補地としての歴史的要件を満たしていない。邪馬台国は北部九州で考えざるを得ない。特別な根拠はないが、邪馬台国は初期ヤマト王権の連合体から取り残された地域、言い換えれば、三角縁神獸鏡を伴う前方後円墳が分布しない地域にあった可能性がある（下線筆者）。それは玄界灘に面していない地域のことである。邪馬台国も壹興もこの後、歴史の闇に消える（p178）。』九州北部の三角縁神獸鏡が出ない地域が邪馬台国であるという見解は、本書で初めて見た。スゴイ見解である。しかし残念ながら特別な根拠はないと述べている。本報の著者らは、この解説書を知らずに、同じ見解をもったのである。しかしこちらには特別な根拠がある。こちらの見解は簡単である。ヤマト朝廷は、邪馬台国討伐のための味方作りのために、全国の諸国に三角縁神獸鏡を配布した。九州地方で、それをもらっていない地域が邪馬台国である。それに該当する三角縁神獸鏡が出ない古墳が江田船山古墳である。そこには、三角縁神獸鏡の代わりに、雄略天皇の鉄刀が収められている。古墳そのものは、卑弥呼時代のものではなく、後世の新しい支配者のものである。雄略天皇から、邪馬台国滅亡後の安定した治世を称賛され贈られたものであろう。そのとき、同時に埋葬された銅鏡は、三角縁神獸鏡ではない鏡であったはずである。邪馬台国討伐時の戦利品であったかもしれない。魏志倭人伝でいう銅鏡100枚のうちであったかもしれない。事実、我々の鋸歯文検定の結果でも中国鏡であることが判明している。これらの見解の証拠は、本欄の2025年2月度の『邪馬台国の位置』論文で詳しく述べた。

さらにこの本では次のように述べている。『三角縁神獸鏡が中国からもたらされたと仮定して、馬韓・弁辰地域の人々に関心がなくなった鏡ゆえに、その地に1枚の痕跡も残さず、中国王朝から倭人社会に持ち込めた可能性はある。しかし、三角縁神獸鏡は、前章まで触れたように多量副葬用の鏡である。』

1000面に達する鏡が運ばれたのであれば、航海の経路上に多少の痕跡があってもよさそうであるが、まったく痕跡がないのも不自然である。初期ヤマト王権による提供（または贈与）は否定しないが「威信財」として配布したとはいえない（p183）。』1枚の痕跡も残さないで朝鮮半島を旅することはできないであろう。実際は、その地方、地方の有力者に、贈呈しながら行ったはずである。三角縁神獸鏡が中国で1枚も発見されず、途中の朝鮮半島で1枚も発見されていないのであれば、三角縁神獸鏡は中国製ではないのである。また三角縁神獸鏡はヤマト朝廷の「威信材」として配布されたものでもない。鏡の銘文は、相手の家運隆盛を願っているものであり、極めて低姿勢のものである。実は、この低姿勢に日本の天皇制の神髄があると著者は思うのである。ヤマト朝廷は邪馬台国討伐のために三角縁神獸鏡を相手の家運隆盛を祈って贈与した。これは武力ではなく文化の力で相手を服従させることを目指したのである。これが、後世までの日本の天皇支配の根本原則となった。したがって、天皇は武力では倒せない存在となった。他国では、王朝は武力で倒され、交代する。しかし、日本では、武力で天皇に替わろうとする人間は出てこない。天皇は奥の存在で、実際の政治は、貴族や武士が行う体制が出来たのである。その体制の発端となったのが、この三角縁神獸鏡贈与作戦であったと考えられる。そういう意味でも三角縁神獸鏡贈与作戦は重要である。万葉集の巻頭の歌は雄略天皇の歌であるらしい。まさに文化の象徴としての天皇である。

古墳時代でも、天皇は、実力はなかったのではないかという例がある。三角縁神獸鏡が出ず、かつ雄略天皇から鉄剣が授与されたところが邪馬台国であると述べたが、それと全く同じ状況がほかにもある。それが埼玉県の新井山古墳である。そこには中国製の画文帯神獸鏡しか出ず、雄略天皇の鉄剣が授与されている。埼玉県は三角縁神獸鏡が出ない空白地帯である。それは、邪馬台国と同様に、ヤマト朝廷に抵抗した勢力があったことをうかがわせる。ヤマト朝廷は周囲の諸国に三角縁神獸鏡を贈って、追討に努めた。邪馬台国と同時期にその国は滅亡したと考えられ、新しい支配者のもとでその後無事に治められた。これを賞して新井山鉄剣が贈られたのであろうが、その銘文が問題である。天皇の補佐官である自分が贈与したことになっており、自分の家の歴史を述べて、自分が中央の政治を行っているようにいつている。天皇は隅に追いやられ、影が薄いように見える。これが、古来から続く天皇制の実態なのではないか。さらに文化支配の根拠を古事記や日本書紀の神話で固めたというのが大まかなところではないか。文化支配だということが、日本史の大きな特徴ではないのだろうか。

また、上記の引用文は、三角縁神獸鏡を大量副葬品だといっている。これもおかしい。三角縁神獸鏡は、ヤマト朝廷が、仲間づくり、慰撫のために贈ったものである、もらった方は、家宝として大事に安置するものである。事実安置されたと考えられる。邪馬台国が滅んで、日本の再統一がなされた後、しばらくして三々五々、古墳に埋葬されるようになったと考えるのが妥当である。

再論すれば本報告の著者の論理の核心は、景初3年（239年）以降、渡来人の陳是・陳氏によって大和で三角縁神獸鏡の生産が始まり、それを邪馬台国討伐のためにの味方づくりのために、ときのヤマト朝廷が全国に配布したという事実である。これを銅鏡に刻まれている鋸歯文の三角形の形状から定量的に証明したことである。この詳細は拙著『古代青銅鏡のDNA=鋸歯文』（ブイツーソリューション2024）に詳述した。

すなわち、景初3年（239年）当時、ヤマト朝廷と邪馬台国は併存していた。これが、分かれば、古代史は、簡単に解けるのである。これより前に、神武東征があり、これより後に邪馬台国の滅亡とヤマト

朝廷による再統一があるのである。それで終わりである。講演なら、エニイ・クエスチョンズ?である。

本報告での平原鏡も、三角縁神獣鏡の親（オヤ）鏡の役割を果たした、三角縁神獣鏡を中心とした古代の大きな流れの一環であったということである

末尾ながら、平原鏡の写真と鏡径などのデータを提供いただいた福岡県糸島市立伊都国歴史博物館様に多大な感謝を申し上げる次第です。

以上